

令和 2 年度
仙台市市民活動サポートセンター
年間報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター

1 はじめに 総括	P 1	6 集計一覧	
2 場の提供	P11	資料 1	サポートセンター年間行事
2-1 貸室、フリースペース	P13	資料 2	主な項目の利用状況推移
2-2 市民活動シアター	P19	資料 3	情報関連業務利用状況推移
2-3 共同事務室(事務用ブース)	P20	資料 4	市民活動共同事務室利用状況
2-4 ロッカー、レターケース	P21	資料 5	貸室利用状況(部屋別集計)
2-5 パソコン、印刷機、コピー機	P22	資料 6	貸室利用時間(曜日・時間別集計)
3 情報の収集・提供	P25	資料 7-1	利用団体分野別集計
3-1 情報掲示等利用	P25	資料 7-2	フリースペース種別集計
3-2 団体情報の蓄積	P27	資料 8	団体情報ストック数 分野別集計
3-3 市民活動団体への情報提供	P28	資料 9	図書資料分類別冊数
3-4 図書の貸出	P29	資料 10	ホームページ アクセス件数集計表
3-5 情報発信	P30	資料 11	「ぱれっと」発行状況
4 相談・問い合わせ対応	P33	資料 12	相談・問合せ対応記録集計表
5 交流・連携・その他	P39	資料 13	視察・見学等対応
5-1 外部組織との連携	P39	資料 14	サポートセンター業務運営体制
5-2 会議・研修	P40		
5-3 視察・見学対応	P42		
5-4 防災避難訓練	P43		
5-5 施設維持管理	P44		
6 事業報告	P45		
事業 1 情報収集提供事業	P47		
事業 2 相談事業	P51		
事業 3-1 人材育成事業	P53		
1.地域や社会の様々な課題の解決に自 主的、自発的に取り組む市民を増やす			
事業 3-2 人材育成事業	P55		
2.活動の段階に応じたスキルの習得を支 援するための事業			
事業 4-1 協働に関する	P59		
理解促進及び機会創出事業			
1. 多様なまちづくりの主体を対象とした、 協働に関する理解を深めるための事業			
事業 4-2 協働に関する	P61		
理解促進及び機会創出事業			
2.多様なまちづくりの主体が活動分野を 超えて連携・交流し、協働の機会を創出 するための事業			
事業 5 調査研究事業	P65		

1. はじめに 総括

～5年後の「課題解決プロジェクトが次々生まれる仙台」へ向けた担い手育成と種まき～

○仙台市市民活動サポートセンター運営基本方針

仙台市市民活動サポートセンター（以下、サポートセンター）は、新たな指定管理期間（令和2年度～6年度）に入るにあたり、今後の地域のあるべき姿として、地域の問題が市民や関係機関との協働により可視化され、可視化された課題を解決できるプロジェクトが次々と生まれ、企業も含む多様な市民が課題解決に参画している状態を目指していくことを掲げた。

5年後の令和6年度(2024年度)には、年間50件程度の新しい活動やプロジェクトがサポートセンターの事業を通して生まれ、300人以上の担い手が参画し、課題を解決する新しい事業や仕組みが地域社会に実装されていくことを目標とし、令和2年度(2020年度)はその助走として、多様なまちづくりの担い手育成と、協働のキーパーソンとの関係構築、社会課題解決のプラットフォームによるプロジェクト創出の種まきを行っていくことを、年度当初に掲げた。新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延により、一部、計画の変更はあったものの、実施方法などを検討しながら施設の運営・事業実施に取り組んだ。

○令和2年度の成果と課題

(1) 施設運営

①成果

新型コロナウイルス感染拡大の影響で発令された政府や市による感染対策に従いつつ、利用者の安全を確保しながら、利用の制限や自粛をお願いするサービスと、最低限継続するサービスとを随時、臨機応変に対応をした（P4「○新型コロナウイルス感染症による影響」参照）

「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」（暫定版）で、使用料の全額返金が発表された令和2年2月27日以降、貸室の使用取りやめが相次ぎ、令和2年度は414件の取りやめ申し出があった（例年の貸室使用取りやめ件数は、年間30件未満）。取りやめにともなう、使用料の還付請求手続きも同程度発生しており、その対応も行った。

②課題

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から「新しい生活様式」への、転換が迫られる中、市民活動や協働の様式も変化していくことが考えられる。実際、サポートセンターでも、フリースペースの休止や貸室利用人数を制限するなどの対策が取られる中で、利用件数や利用人数を指標として目指すことは意味をなさない。「多くの人が利用する施設」から「多様な利用の仕方ができる施設」へと、新たな支援様式を打ち出す時期に来ている。

(2) 情報収集提供事業

①成果

新型コロナウイルス感染拡大の影響で臨時休館などの利用制限があったことから、令和2年度は、施設に来館しなくても市民活動などの情報を得られるよう、ブログでの発信に力を入れた。コロナ禍での市民活動を支援する助成金情報や、新しい生活様式下でのボランティア募集のほか、困難を抱えている人のお役立ち情報など、現在の社会情勢に合わせた幅広い情報を発信したため、記事の投稿数が404件（前年度比138%）と大きく増加した。これをうけて訪問者数（ユニークユーザー）57,491件（前年度比141%）、閲覧数（ページビュー）777,079件（前年比131%）と、どちらも前年度を大きく上回った。

また、地域に根差したメディアである TOHOKU360 と協働で制作した動画配信番組「いづいっちゃんねる」（全6回）のYouTube上での総再生数は、令和3年3月31日時点で2,356回と、新たな情報発信ツールとして機能し始めている。

②課題

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、紙媒体（チラシ、ポスター、ニューズレターなど）の情報揭示利用件数は2,297件で、前年度比64%と減少した。種別に前年度比を見ると、ポスター44%、チラシ52%、ニューズレター90%となっている。定期刊行物であるニューズレターは前年度比90%と落ち込みが少なかった一方、イベントの広報物であるポスター・チラシは半数程度に減少した。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、イベント等の開催自粛が見られた一方、イベントのオンライン移行により、ウェブによる情報発信に力を入れる団体も見られた結果、チラシやポスターの受付が減少していると考えられる。情報受発信の支援方法についても、状況に合わせた支援メニューが必要である。

(3) 相談事業

①成果

令和2年度の相談件数は679件（前年度763件、前年度比89%）と減少したが、「活動相談（相談）」は314件で前年度の294件から増加（前年度比107%）した。活動相談のうち、新型コロナウイルスに関連した相談は120件と活動相談全体の38%を占めた。

臨時休館や利用自粛により施設利用が減少したことから「窓口利用相談」は321件（前年度434件、前年度比74%）と減少したが、他施設の休館などから新型コロナウイルスに関連した問い合わせが70件（窓口利用相談の22%）あった。

②課題

施設の臨時休館などが相談件数の減少につながった。特に、来館による「対面」での相談が348件と前年度の482件（前年度比72%）より減少した。臨時休館等で来館者が減っただけでなく、新型コロナウイルス感染対策で人との接触を極力減らす人もあったことが考えられ、対面以外での相談手段の確保が課題といえる。

(4) 人材育成事業

①成果

地域に根差したメディアである TOHOKU360 と協働し、動画配信番組「いづいっちゃんねる」をスタートした。サポートセンターとしては初めての試みとなる動画配信をしたことで、サポートセンター利用者とは異なる新たな層へと人材育成を広げることができ、6 回の配信で参加者数（リアルタイム視聴数）が、のべ 141 人となった。

②課題

動画配信番組は好調だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、会場参加の講座の実施回数等を減らしたことから、人材育成事業の参加人数はのべ 221 人と目標の 300 人に届かなかった。

(5) 協働に関する理解促進及び機会創出事業

①成果

せんだい・みやぎソーシャルハブのオンライン情報交換会（全 24 回開催）の参加者数が、のべ 319 人と目標の 100 人を大きく上回った。市民活動団体、企業経営者、大学関係者、市議会議員、行政職員などさまざまな立場の人が活発に意見交換を行う場を提供できた。情報交換会から 4 つのプロジェクトが立ち上がり、課題の深掘りや実際のアクションに結びついた。

②課題

せんだい・みやぎソーシャルハブのオンライン情報交換会が順調に参加者を集めた一方、交流がメインの定期交流会は、オンライン活用も試行したが、宮城県・仙台市緊急事態宣言の発出などもあり、参加者を確保できなかった。

また、せんだい・みやぎソーシャルハブは、参加者の広がりが鈍く、参加者が固定化しつつある。

(6) 調査研究事業

①成果

せんだい・みやぎソーシャルハブを立ち上げ、定期的にオンライン情報交換会を開催し、新型コロナウイルス感染症の蔓延が社会的弱者に及ぼす影響について情報収集を行った。

せんだいみやぎソーシャルハブの事務局を設置し、事務局運営体制の試行を開始した。情報交換会で提供された情報をサポートセンター内の他事業へ情報提供した。また、相談対応への連携を行った。

②課題

調査研究の成果を開く勉強会を実施できなかった。また、せんだい・みやぎソーシャルハブに、セッションの機能だけではなく、調査と課題を開く機能を持たせること、および、発信力の強化が求められる。

○新型コロナウイルス感染症による影響

(1) 社会的動向

新型コロナウイルス感染症にかかる社会的動向を以下に時系列でまとめた。

月日	世界・国内の動向	宮城県・仙台市の動向
令和2年 1月6日(月)	中国湖北省武漢市で令和元年(2019年)12月12日～原因不明の肺炎発生と厚労省が発表	
1月14日(火)	世界保健機構(WHO) 新型コロナウイルスを確認	
1月16日(木)	国内感染者1例目発生	
1月27日(月)		宮城県 新型コロナウイルス感染症対策本部設置
1月30日(木)	WHO 緊急事態宣言	
2月13日(木)	国内死亡1例目発生	
2月25日(火)	国 「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」決定	
2月29日(土)		仙台市内で感染者発生
3月11日(水)	WHO パンデミック表明	
4月3日(金)		宮城県・仙台市 不要不急の外出自粛要請
4月7日(火)	7都府県(東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡)に緊急事態宣言	
4月11日(土)	国内第1波ピーク(714人)	
4月16日(木)	緊急事態宣言 全都道府県に拡大(～5月6日)	
4月18日(土)	国内感染者累計1万人超える	
4月21日(火)		宮城県 4月25日～5月6日の休業要請を発表
4月24日(金)		東北6県・新潟県・仙台市・新潟市県をまたいだ移動自粛を呼びかける共同宣言
4月30日(木)	定額給付金(国民1人当たり10万円)の補正予算成立	
5月4日(月)	緊急事態宣言延長(～5月31日) ※特定警戒都道府県以外は、段階的に社会活動の維持へ移行	
5月7日(木)		宮城県 休業要請を解除
5月9日(土)		宮城県 死亡1例目発生
5月14日(木)	39県で緊急事態宣言解除(北海道、東京、千葉、埼玉、神奈川、大阪、京都、兵庫は継続)	
5月25日(月)	全国で緊急事態宣言解除	
7月9日(木)		県内感染者累計100人超える

月日	世界・国内の動向	宮城県・仙台市の動向
7月22日(水)	GO TO トラベル開始	
7月28日(火)	国内死者累計 1,000 人超える	
8月7日(金)	国内第2波ピーク(1,601人)	
9月13日(日)		みやぎアラート レベル3に引き上げ。宮城県知事・仙台市長緊急声明
9月15日(火)	GO TO Eat 開始	
10月30日(金)	国内感染者累計 10 万人超える	
11月9日(月)		宮城県 緊急警報発表
11月16日(月)		宮城県 GO TO Eat 販売開始
11月17日(火)		県内感染者累計 1,000 人超える
11月19日(木)		県医師会 医療危機的状況宣言
12月5日(土)	世界でワクチン接種始まる	
12月15日(火)		仙台市感染者累計 1,000 人超える
12月16日(水)		宮城県新型コロナ危機宣言
12月28日(月)		宮城県 飲食店へ時短要請(～1月12日) GO TO Eat 販売停止
令和3年 1月7日(木)	1都3県(東京・埼玉・千葉・神奈川)に緊急事態宣言	
1月8日(金)	国内第3波ピーク(7,851人)	
1月12日(火)		宮城県 飲食店へ時短要請延長(～1月27日)
1月13日(水)	緊急事態宣言 7府県(大坂、京都、兵庫、愛知、岐阜、福岡、栃木)追加	
1月27日(水)	世界の感染者累計 1 億人超える	
2月8日(月)	緊急事態宣言 栃木で解除。 10都府県は3月7日まで延長	
2月17日(水)	国内でのワクチン接種開始	
2月23日(火)		宮城県 GO TO Eat 販売再開
2月28日(日)	緊急事態宣言 6府県で解除。 1都3県(東京、埼玉、千葉、神奈川)は継続	
3月16日(火)		宮城県 GO TO Eat 販売停止
3月18日(木)		宮城県・仙台市緊急事態宣言(～4月11日) 直近1週間の人口 10 万人当たりの感染者数 宮城県が全国ワースト
3月21日(日)	緊急事態宣言 すべて解除	
3月31日(水)		宮城県 1 日の感染者数最多更新(200人)

※全国の感染者数等は厚生労働省の発表資料を参照した。

※宮城県の感染者数等は宮城県の発表資料を参照した。

(2) ガイドライン

仙台市危機管理室発行の「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」の発行日及び概要

発行日	版	施設の取扱いの概要／サポートセンターの運用	適用期間
令和2年 2月27日(木)	暫定版	適切な感染予防対策を講じて運営。 2月20日～3月9日の使用料全額返金	3月9日まで
2月29日(土)	改訂版	適用期間延長	3月31日まで
3月4日(水)	三訂版	適用期間の新規受付休止 フリースペースの利用休止	3月5日～ 3月31日まで
3月27日(金)	四訂版	適用期間延長	4月12日まで
4月8日(水)	五訂版	適用期間延長 サポートセンター4月11日～臨時休館 継続するサービスは18時まで ※継続するサービス 窓口、印刷作業室、事務用ブース、ロッカー、レターケース	5月10日まで
4月22日(水)	六訂版	利用の自粛を強く要請 使用料全額返金について、適用期間以降のものについても対象とする 継続するサービスは、4月25日～5月10日の間は17時まで	5月10日まで
4月30日(木)	七訂版	適用期間中は臨時休館 新規利用の受付休止（適用期間外も） やむを得ず利用する場合は予防対策の徹底を要請	5月31日まで
5月15日(金)	八訂版	適用期間中は施設ごとに休止を判断 施設ごとに予約受付の再開を判断 利用者に対して感染予防策の励行 サポートセンター6月1日～開館 フリースペースは休止 貸室の利用は定員の半数程度を要請 6月1日以降利用の貸室について5月18日より電話予約受付開始	5月31日まで
5月27日(水)	九訂版	業種別感染拡大予防ガイドラインに配慮し、適切な感染予防対策を徹底 サポートセンター 6月1日～窓口での貸室申込受付再開	当面の間
7月29日(水)	十訂版	施設の取扱い変更なし (市主催事業の定員についてのみ変更)	当面の間
8月27日(木)	十一訂版	施設の取扱い変更なし (市主催事業の定員についてのみ変更)	当面の間
9月17日(木)	十二訂版	サポートセンター 市民活動シアターの利用は、ガイドラインの〈催物開催の目安〉を基準に要請	当面の間

発行日	版	施設の取扱いの概要／サポートセンターの運用	適用期間
11 月 30 日(月)	十三訂版	「寒冷な場面における新型コロナ感染防止等のポイント」を踏まえ換気・保湿に努める。 利用料は令和 3 年 3 月 31 日利用分まで全額返金（令和 3 年 4 月～9 月利用分は令和 3 年 3 月 31 日まで申し出た場合のみ全額返金対象）	当面の間
令和 3 年 3 月 1 日(月)	十四訂版	サポートセンター 市民活動シアターの利用料は、9 月利用分まで全額返金	当面の間
3 月 25 日(木)	十五訂版	3 月 26 日以降、宮城県・仙台市緊急事態宣言発出期間中は原則休館または利用の自粛呼びかけ。同期間の利用料は全額返金。 サポートセンター 3 月 27 日～利用休止 既予約者に利用の中止を強く求める 原則 17 時閉館 5 月 31 日利用分まで新規予約受付停止	当面の間

（3）施設対応

①休館等

- ・ 臨時休館 令和 2 年 4 月 11 日(土)～5 月 31 日(日)
- ・ 閉館時間の繰り上げ 令和 2 年 4 月 4 日(土)（18 時閉館）
- ・ 利用休止 令和 3 年 3 月 27 日(土)～4 月 11 日(日)

②施設使用料の返金・使用料の減免

新型コロナウイルスの感染防止を理由として利用を取りやめた施設の使用料を全額返金

- ・ 市民活動シアター 令和 2 年 2 月 20 日(木)～令和 3 年 9 月 30 日(木)
- ・ その他の貸室 令和 2 年 2 月 20 日(木)～令和 3 年 4 月 11 日(日)
令和 3 年 4 月 12 日(月)～9 月 30 日(木)利用分は令和 3 年 3 月 31 日(水)までに取りやめた場合は返金対象

臨時休館に伴う使用料の全額返金

- ・ 事務用ブース 令和 2 年 4 月分

市民活動シアターを収容率 50%以内で利用の場合使用料を 50%減免

- ・ 市民活動シアター 令和 2 年 6 月 19 日(金)～令和 3 年 9 月 30 日(木)

③サービスの休止

新型コロナウイルス感染対策のため利用を制限したサービスは以下の通り。

対象となるサービス	概要	適用期間
貸室の新規受付	休止	令和2年3月5日(木)～ 5月31日(日) 令和3年3月27日(土)～ 5月31日(月)
相談業務 使用料還付手続き 各種使用料収納 チラシ受付	18時まで	令和2年4月4日(土) 令和2年4月11日(土)～ 4月24日(金)
	17時まで	令和2年4月25日(土)～ 5月31日(日) 令和3年3月27日(土)～ 4月11日(日)
貸室の利用	利用自粛要請	令和2年4月11日(土)～ 5月31日(日) 令和3年3月27日(土)～ 4月11日(日)
	定員の半数程度での利用を要請	令和2年6月1日(月)～ 10月4日(日)
市民活動シアター	利用に際してガイドラインの催物 開催の基準に準じた取扱いを要請	令和2年6月19日(金)～ 令和3年4月30日(金)
交流サロン	利用休止	令和2年3月5日(木)～ 8月31日(月) 令和3年3月27日(土)～ 4月11日(日)
	テーブルの利用人数制限 (1テーブル当たり2名まで)	令和2年9月1日(火)～ 10月4日(日)
利用者用パソコン	利用休止	令和2年3月5日(木)～ 8月31日(月) 令和3年3月27日(土)～ 4月11日(日)
印刷作業室	18時まで	令和2年4月4日(土) 令和2年4月11日(土)～ 4月24日(金)
	17時まで	令和2年4月25日(土)～ 5月31日(日) 令和3年3月27日(土)～ 4月11日(日)
事務用ブース ロッカー レターケース	18時まで	令和2年4月4日(土) 令和2年4月11日(土)～ 4月24日(金)
	17時まで	令和2年4月25日(土)～ 5月31日(日) 令和3年3月27日(土)～ 4月11日(日)

(4) 貸室等への影響

新型コロナウイルス感染防止を理由とする取りやめ・使用変更の影響は以下の通り。

※人数は申込時の使用予定人数より算出

※使用変更は別月へ使用変更したものが対象

使用予定月	取りやめ		使用変更		計	
	件数	予定人数	件数	予定人数	件数	予定人数
令和2年4月	140件	2,873人	53件	972人	193件	3,845人
5月	143件	3,131人	11件	227人	154件	3,358人
6月	43件	1,472人	13件	372人	56件	1,844人
7月	31件	1,158人	6件	99人	37件	1,257人
8月	17件	830人	1件	10人	18件	840人
9月	25件	1,122人	2件	116人	27件	1,238人
10月	17件	715人	1件	5人	18件	720人
11月	19件	674人	1件	8人	20件	682人
12月	10件	399人	1件	8人	11件	407人
令和3年1月	22件	416人	9件	102人	31件	518人
2月	8件	392人	6件	55人	14件	447人
3月	23件	296人	17件	240人	40件	536人
計	498件	13,478人	121件	2,214人	619件	15,692人

○令和3年度に向けて

(1) 令和2年度トピック

①新型コロナウイルス感染拡大による影響

- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大などにより、臨時休館や利用休止、閉館時間の繰り上げ、一部サービスの利用制限を行わざるを得なかった。市民活動団体自体の活動自粛の影響もあり、利用件数・利用人数は著しく減少した。一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、危機管理室発行のガイドラインに基づいた施設の管理運営や、例年の約15倍の使用取りやめ申し出・使用料還付手続きなど施設管理業務は多忙を極めた。(P4「○新型コロナウイルス感染症による影響」参照)

②ブログのアクセス数増加と紙媒体の利用減少

- ・ブログの訪問者(ユニークユーザー)が年間57,491件となり前年度比で16,000件以上増加。一方で、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛・イベント自粛の影響もありチラシ取扱い件数は年間1,134件と前年度比で1,027件と半数近く減少した。これまでも見られてきた情報受発信の紙媒体からウェブへの移行傾向が一気に加速した形となった。

③新型コロナウイルスに関連した相談からみえる市民活動への影響

- ・活動相談(314件)のうち、新型コロナウイルスに関連した相談は120件と活動相談全体の38%を占めた。中には「コロナ禍もあり活動を終了する」といった相談もあり、新型コロナウイルス感染拡大による市民活動への何らかの影響が広がってきていることが反映された。

④オンラインでの地域課題・社会課題の共有

- ・地域に根差したメディアであるTOHOKU360と協働で制作した動画配信番組「いづいっちゃんねる」(全6回)の参加者数(リアルタイム視聴数)が、のべ141人、動画のYouTube上での総再生数は、令和3年3月31日時点で2,356回。せんだい・みやぎソーシャルハブのオンライン情報交換会(全24回)が、のべ319人参加。いずれも令和2年度から開始した事業ながら、順調に参加者を集めている。コロナ禍でオンライン利用が進む中、オンラインで地域課題や社会課題の情報を収集する人が増えていることが推測される。

(2) 令和3年度に向けて

①新型コロナウイルス感染拡大の社会情勢を踏まえた、新しい支援サービス提供

- ・新型コロナウイルス感染拡大で、市民活動で用いられてきた「集まり交流する」という方法について安全に行うための検討や見直しが求められてきている。サポートセンターでも、施設に人を集める方法から、オンラインの活用やウェブでの情報発信など、施設に来場しなくても受けられるサービスを展開していくことが求められている。一方で、当事者の自助グループや高齢者を対象とした活動、地域でのサロン活動などオンライン化の難しい活動もあり、サポートセンターが施設管理で試行錯誤してきた感染対策を広く市民活動団体へ還元していくことも、役割の一つだと考えられる。

2. 場の提供

令和 2 年度の総利用件数は、8,376 件、(31 年度比▲8,618 件)、利用者総数 20,807 人 (31 年度比▲42,814 人) であった。

情報利用者数 5,373 人(参考値)を加えても合計利用者数は、26,180 人。前年度の 89,556 人から▲63,376 人減少した。

総利用件数ではフリースペースの利用休止が、総利用人数では貸室の臨時休館・利用制限が影響して減少した。

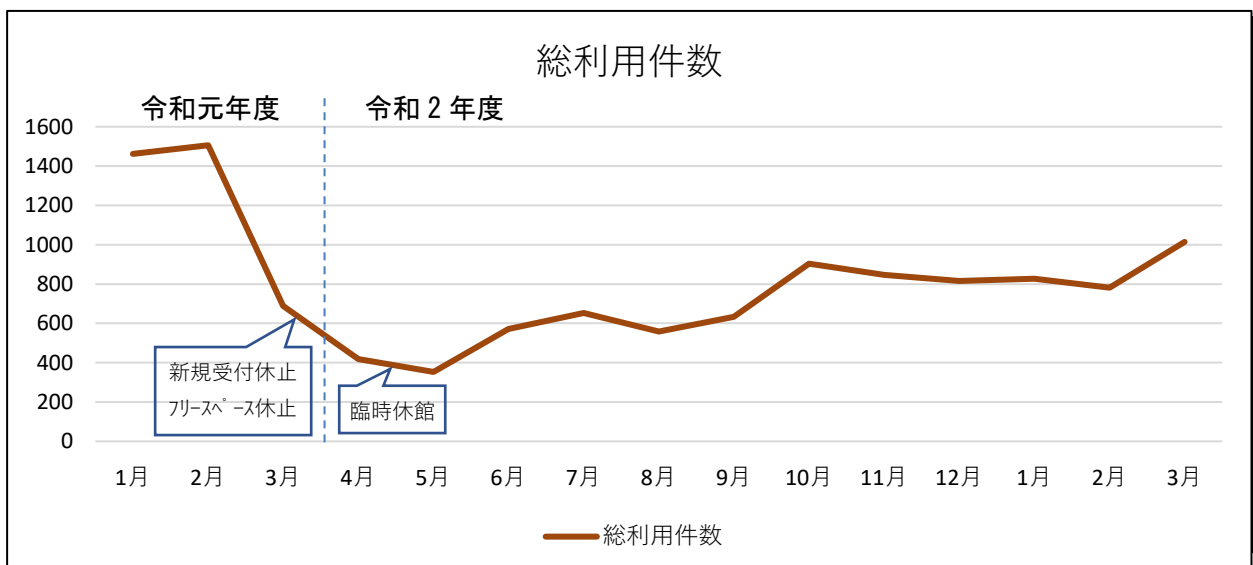
利用件数	件数		
	H30 年度	R1 年度	R2 年度
総利用件数	18,591	16,994	8,376

利用者数	人数		
	H30 年度	R1 年度	R2 年度
利用者総数	68,815	63,621	20,807
情報利用者数 (参考値)	23,835	25,935	5,373
合計利用者数	92,650	89,556	26,180

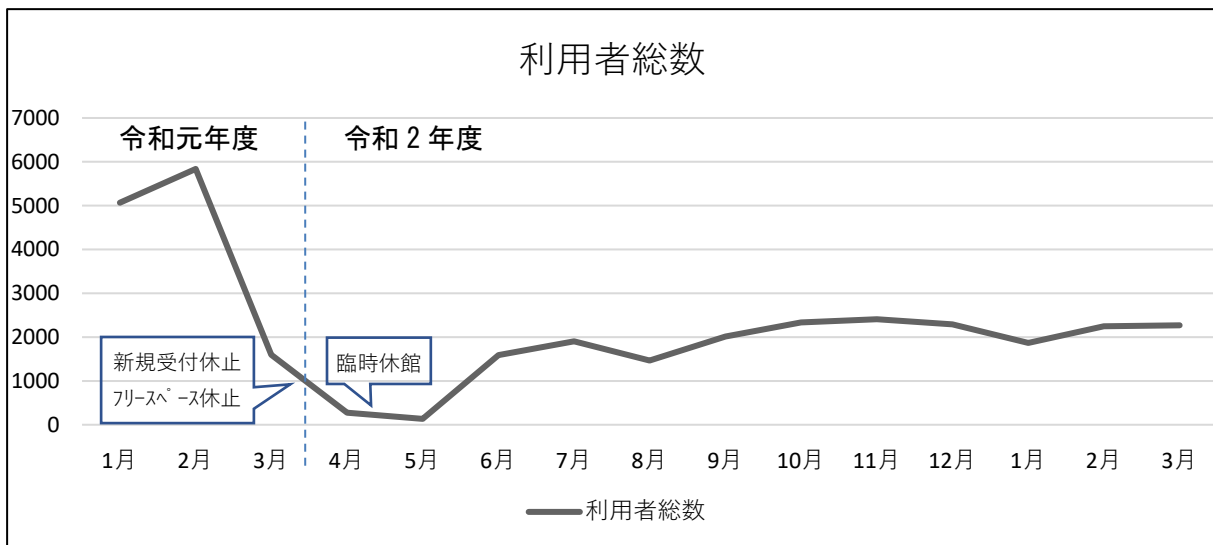
情報利用者数

1 階のマチノワひろば利用者やチラシ、ニューズレターなどの情報を閲覧もしくは収集している方で、利用票にて集計されるイベントなどで利用している方やパソコン利用、図書の貸し出し利用者は含めない。

総利用件数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
H29 年度	1,513	1,513	1,481	1,487	1,341	1,471	1,418	1,431	1,299	1,252	1,270	1,656
H30 年度	1,553	1,588	1,570	1,525	1,444	1,718	1,712	1,524	1,324	1,455	1,553	1,623
R1 年度	1,699	1,499	1,576	1,566	1,402	1,371	1,462	1,401	1,361	1,462	1,506	689
R2 年度	418	353	572	653	558	633	904	846	815	827	782	1,015
R2 年度の 前年増減	-1,281	-1,146	-1,004	-913	-844	-738	-558	-555	-546	-635	-724	326
R2 年度の 前年対比	24.6%	23.5%	36.3%	41.7%	39.8%	46.2%	61.8%	60.4%	59.9%	56.6%	51.9%	147.3%



利用者総数												
H29 年度	4, 886	4, 853	5, 647	5, 759	4, 397	4, 993	5, 796	6, 021	5, 235	4, 332	6, 172	5, 822
H30 年度	5, 338	5, 166	5, 828	6, 059	4, 994	5, 782	5, 971	6, 104	5, 527	4, 735	6, 414	6, 887
R1 年度	5, 497	4, 862	6, 373	6, 033	5, 196	6, 021	5, 024	6, 545	5, 572	5, 066	5, 837	1, 595
R2 年度	277	134	1, 589	1, 905	1, 466	2, 014	2, 338	2, 409	2, 293	1, 869	2, 246	2, 267
R2 年度の 前年増減	-5, 220	-4, 728	-4, 784	-4, 128	-3, 730	-4, 007	-2, 686	-4, 136	-3, 279	-3, 197	-3, 591	672
R2 年度の 前年対比	5. 0%	2. 8%	24. 9%	31. 6%	28. 2%	33. 4%	46. 5%	36. 8%	41. 2%	36. 9%	38. 5%	142. 1%



利用件数内訳	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
貸室	27	9	163	213	172	195	201	211	188	157	182	162
フリースペース	39	23	45	32	22	87	175	228	210	172	238	247
印刷機利用	30	27	30	32	26	28	40	41	17	26	20	34
パソコン利用	0	0	0	0	0	4	1	13	13	9	7	23
情報掲示受付	115	90	130	200	202	146	335	203	225	220	163	268
相談	40	35	58	80	42	66	63	66	59	59	56	86
来訪者	0	0	2	0	3	8	3	4	1	0	0	0
総利用件数	418	353	572	653	558	633	904	846	815	827	782	1,015

利用者数内訳	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
貸室	191	0	1425	1742	1367	1793	1912	1866	1782	1465	1635	1630
フリースペース	45	25	96	63	42	130	342	453	416	340	548	531
相談	41	42	64	100	48	77	79	73	94	64	63	106
来訪者	0	0	4	0	9	14	5	17	1	0	0	0
利用者総数	277	134	1,589	1,905	1,466	2,014	2,338	2,409	2,293	1,869	2,246	2,267

2-1. 貸室、フリースペース

令和2年度の利用件数・利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響で、大幅減となった。令和2年3月以来、逐次実施された新型コロナウイルスの感染防止を目的とした、臨時休館やサービスの利用制限・定員制限等（詳細はP7「○新型コロナウイルス感染症による影響（3）施設対応」参照）で、直接的に利用が制限された他、「不要不急の外出の自粛」や「新しい生活様式の普及」による、利用者の自主的な自粛・利用人数の抑制により利用件数・利用者数が減少した。

貸室とフリースペースを合わせた諸室の総利用件数は3,398件、総利用人数は19,906人となり、すでに一部の利用制限が始まっていた令和2年3月を含む前年度と比較しても件数で▲5,418件（前年度比39%）、人数で▲42,739人（前年度比32%）と減少した。令和2年4月11日～5月10日の臨時休館、5月31日まで貸室新規利用申込の全面停止、8月31日までフリースペースの利用停止があった他、6月より再開した貸室予約も9月末まで定員の半数での利用を要請し、9月より再開したフリースペースもテーブルを間引くなどして利用を制限した。また、令和3年3月には再度、サービスの休止、貸室予約の停止措置が取られており、令和3年度にかけても、新型コロナウイルス感染症の影響が継続すると予測される。

諸室利用件数・人数		件数	人数
H30年度 諸室利用計		9,682	67,578
R1年度 諸室利用計		8,816	62,645
R2年度	貸室計	1,880	16,875
	交流サロン計	1,518	3,031
	諸室利用計	3,398	19,906
R1年度比		39%	32%

諸室を利用した団体数は、令和2年度は257団体で、前年度の720団体から▲363団体と大幅に減少した。内訳では、セミナーホール・研修室で257団体、市民活動シアターで16団体、交流サロンで148団体となった。集客のイベントが中心となる市民活動シアターでは前年度比で27%と特に落ち込みが大きく、8月まで利用休止が続いた交流サロンの利用団体も大きく減少した。

諸室利用団体数		H30年度	R1年度	R2年度
諸室利用団体 総数		903	720	357
内訳	セミナーホール・研修室	441	417	257
	市民活動シアター	80	60	16
	交流サロン	598	423	148

重複利用があるため、内訳の各利用団体数の計と利用団体総数は一致しない。

利用団体数が大幅に減少したこともあり、利用団体の種別は前年度と比較し、変化した。利用回数が多い順に 50 団体を対象とした上位 5 位の種別では、前年度には「国際交流・協力」「子ども・社会教育」「福祉」「学生団体」「人権・ジェンダー」の順だったが、「学生団体」「人権・ジェンダー」が外れた。「学生団体」の利用が減少した背景には、新型コロナウイルス感染拡大を受け大学生の学外での活動が制限されている状況があることが推測される。

諸室利用団体種別	上位団体数
国際交流・協力	9
福祉	9
子ども・社会教育	8
医療・健康・スポーツ	5
市民活動支援	4

貸室の利用団体種別では、令和 2 年度に新たな変化は見られず、「福祉」「子ども・社会教育」「国際交流」が上位団体で、順位の変動はあるものの前年度と変わらなかった。

貸室利用団体種別	上位団体数
福祉	12
子ども・社会教育	10
国際交流・協力	8

交流サロンの利用団体数の種別には変動がみられた。前年度の「子ども社会教育」「国際交流・協力」「医療・健康・スポーツ」から「医療・健康・スポーツ」が外れ、「福祉」が入った。利用目的の多様性から交流サロンの利用団体種別は、毎年変動がある。

交流サロン種別	上位団体数
子ども・社会教育	10
福祉	7
国際交流・協力	6

■貸室

貸室（地上階）では、令和２年度は１,８５４件、１６,０７５人で、使用率は６４%にとどまった。市民活動シアターも含めた合計は１,８８０件、１６,８７５人で、使用率は５６%。コロナ禍による臨時休館、利用の自粛要請、利用人数制限等の施策があり、前年度との対比は意味をなさないが、利用件数では前年度の６６%、利用人数で前年度の３６%にとどまった。集客イベントでの利用が中心の市民活動シアターの利用件数が前年度比で２割程度、窓が無く狭い研修室４の利用件数が前年度比で５割程度だった一方、他の研修室より広い研修室５は前年度比で８割以上となり、前年度より利用が減少する状況の中でも、貸室の種類により減少の幅に差が見られた。密を避け、参加者同士の距離を保ち、定員の半数以下で利用する「新しい生活様式」が、利用者の中にも定着したことが伺える。

貸室利用状況	R1 年度（開館日数 336 日）			R2 年度（開館日数 335 日）		
	件数	人数	使用率	件数	人数	使用率
セミナーホール	346	15,664	80%	232	5,369	53%
研修室 1	475	3,592	88%	346	1,815	70%
研修室 2	583	5,727	90%	450	3,003	78%
研修室 3	410	3,557	82%	228	1,287	54%
研修室 4	521	3,023	90%	265	1,155	62%
研修室 5	391	6,687	82%	333	3,446	65%
地上階貸室計	2,726	38,250	85%	1,854	16,075	64%
市民活動シアター	108	8,429	31%	26	800	7%
合計	2,834	46,679	78%	1,880	16,875	56%

臨時休館中は貸室の利用自粛を求めたが、希望すれば利用可能であったため、開館日数としてカウント

月別の動向をみると、臨時休館が解除となった６月以降、１０月にかけて利用件数・利用人数ともに徐々に回復したが、宮城県が緊急警報を発表した１１月から減少傾向となった。令和２年３月には、新型コロナウイルスの国内感染が報告され、貸室の新規利用申込も停止したことから利用が減少。その影響で、３月の前年度対比はプラスに転じている。

貸室件数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
H29 年度	256	244	272	276	231	246	260	286	238	212	250	263
H30 年度	247	244	252	249	227	256	262	261	233	227	261	280
R1 年度	253	240	266	259	224	252	228	266	242	234	253	117
R2 年度	27	9	163	213	172	195	201	211	188	157	182	162
R2 年度の 前年増減	-226	-231	-103	-46	-52	-57	-27	-55	-54	-77	-71	45
R2 年度の 前年対比	10.7%	3.8%	61.3%	82.2%	76.8%	77.4%	88.2%	79.3%	77.7%	67.1%	71.9%	138.5%

令和２年４月１１日～５月３１日臨時休館

貸室 利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H29年度	3,670	3,689	4,337	4,381	3,250	3,677	4,442	4,721	4,135	3,351	4,347	4,254
H30年度	3,712	3,631	3,994	4,413	3,291	3,927	4,169	4,449	4,131	3,466	4,671	4,770
R1年度	3,821	3,501	4,621	4,424	3,699	4,592	3,590	4,884	4,185	3,774	4,309	1,279
R2年度	191	67	1,425	1,742	1,367	1,793	1,912	1,866	1,782	1,465	1,635	1,630
R2年度の 前年増減	-3,630	-3,434	-3,196	-2,682	-2,332	-2,799	-1,678	-3,018	-2,403	-2,309	-2,674	351
R2年度の 前年対比	5.0%	1.9%	30.8%	39.4%	37.0%	39.0%	53.3%	38.2%	42.6%	38.8%	37.9%	127.4%

令和2年4月11日～5月31日臨時休館

また、貸室申込件数は新規申込停止期間（5月31日まで）解除後の6月は増えたが、例年の7～8割程度で推移した。「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」（暫定版）で、使用料の全額返金が発表された令和2年2月27日以降、取りやめが相次ぎ、令和2年度は414件の取りやめ申し出があった。活動の自粛や休止、中止を余儀なくされた団体が多くある状況が顕著に伺いしれる。

貸室 申込件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
H29年	212	190	212	179	187	177	184	182	181	194	160	196	2,254
H30年	197	173	167	174	176	186	179	193	185	177	206	225	2,238
R1年	192	170	167	199	168	190	185	172	190	206	178	116	2,133
R2年	48	26	204	164	142	174	148	141	121	147	145	146	1,606
R2年度の 前年増減	-144	-144	37	-35	-26	-16	-37	-31	-69	-59	-33	30	-527

貸室 取りやめ 件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
H29年	2	1	3	3	1	3	0	2	3	3	3	3	27
H30年	3	1	1	5	0	3	0	3	4	1	2	4	27
R1年	8	2	1	3	3	4	5	2	3	2	15	84	132
R2年	170	78	14	11	24	22	10	4	5	20	7	49	414
R2年度の 前年増減	162	76	13	8	21	18	5	2	2	18	-8	-35	282

貸室全体の年間使用時間計も、令和2年度は、5,688時間で、前年度の9,532時間よりさらに3,844時間減った。（集計一覧：資料5「貸室利用状況（部屋別集計）」参照）

曜日別使用時間数では、例年通り、土曜日・日曜日の利用が多く、水曜日の利用が少ない傾向だった一方で、時間帯別にみると、臨時休館や閉館時間繰り上げ等の影響で、17時以降の利用は減少した。（集計一覧：資料6「貸室利用時間（曜日・時間別集計）」参照）

■ フリースペース

交流サロンは、新型コロナウイルス感染防止のため、令和2年3月5日～8月31日まで、および令和3年3月27日～4月11日まで利用休止となった。また、本来、16テーブル60席（予備椅子利用で最大72席）利用可能であったが、利用休止解除後も感染防止のため、令和2年9月1日～10月4日は、9テーブル18席、令和2年10月5日～令和3年3月26日は、9テーブル40席で運用した。このため、令和2年度のフリースペース利用は、件数1,518件、人数3,031人にとどまった。件数では、例年の1/3以下、人数は1/5程度まで落ち込む結果となった。

フリースペースの利用	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
利用件数	5,422	5,280	6,683	5,982	1,518
利用人数	14,965	14,683	18,954	15,966	3,031

フリースペース 利用件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H29年度	423	406	458	399	399	472	506	448	412	380	440	537
H30年度	526	509	606	578	544	591	601	566	489	454	589	630
R1年度	591	510	603	580	542	510	522	495	484	476	556	113
R2年度	39	23	45	32	22	87	175	228	210	172	238	247
R2年度の 前年増減	-552	-487	-558	-548	-520	-423	-347	-267	-274	-304	-318	134
R2年度の 前年対比	6.6%	4.5%	7.5%	5.5%	4.1%	17.1%	33.5%	46.1%	43.4%	36.1%	42.8%	218.6%

フリースペース 利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H29年度	1,124	1,060	1,227	1,311	1,050	1,197	1,300	1,205	1,028	933	1,766	1,482
H30年度	1,527	1,427	1,735	1,568	1,635	1,655	1,708	1,573	1,328	1,175	1,603	2,020
R1年度	1,578	1,278	1,648	1,501	1,409	1,365	1,369	1,586	1,304	1,231	1,438	259
R2年度	45	25	96	63	42	130	342	453	416	340	548	531
R2年度の 前年増減	-1,533	-1,253	-1,552	-1,438	-1,367	-1,235	-1,027	-1,133	-888	-891	-890	272
R2年度の 前年対比	2.9%	2.0%	5.8%	4.2%	3.0%	9.5%	25.0%	28.6%	31.9%	27.6%	38.1%	205.0%

フリースペースには事務用ブースの利用件数・利用人数も含まれるため、交流サロン休止中も0にはならない。

交流サロンの利用形態では、例年、自由度の高いアクティブスペースの件数が高く、6人まで利用できるスタンダードスペースの利用人数が多くなるが、令和2年度は、件数・人数ともにスタンダードスペースの利用が多くなった。これは、感染対策のため、アクティブスペースのテーブル数を6テーブルから3テーブルに間引いたことが影響したと思われる。（集計一覧：資料7-2「交流サロン種別集計」参照）

■施設における新型コロナウイルス感染症対策

	実施内容	実施期間
館内	アルコール消毒液の設置	以前より恒常的に実施
	アルコール消毒液ディスペンサーを自動噴霧タイプに変更	令和2年7月5日(日)～
	給湯室利用中止、茶器貸出中止	令和2年3月5日(木)～
	印刷機利用団体へ清掃用具貸出	令和2年3月5日(木)～
	非接触型体温計の設置・貸出	令和2年6月5日(金)～
	交流サロンへ清掃用具設置	令和2年9月1日(火)～
	飛沫防止パネルの貸出	令和2年10月5日(月)～
窓口	貸出備品の除菌	令和2年3月5日(木)～
	窓口にビニールカーテン取付	令和2年4月9日(木)～
	交流サロン、印刷作業室、利用者パソコン等の利用者に連絡先カード提出依頼	令和2年9月1日(火)～
掲示	注意喚起文の掲示（健康安全課からの依頼）	令和2年1月28日(火)～
	外国語の注意喚起文の掲示 （健康安全課からの依頼）	令和2年1月29日(水)～
	チラシラックに注意喚起掲示(一度手にしたチラシをラックに戻さないように)	令和2年6月1日(月)～
	厚生労働省接触確認アプリ「COCOA」案内掲示	令和2年6月19日(金)～
	喫煙所に注意喚起掲示	令和2年11月17日(火)～
市民活動シアター	市民活動シアターCOVID-19 ガイドライン作成・配布	令和2年7月15日(水)～
	入場時整列用足形シール設置	令和2年8月12日(水)
スタッフ	全員参加の会議取りやめ	令和2年4月8日(水)～ 7月8日(水)
	業務の一部テレワーク化	令和2年4月25日(土)～ 5月31日(日)

2-2. 市民活動シアター

市民活動シアター（以下、シアター）の令和2年度（開館日 335 日）の利用状況は、利用日数 25 日、利用時間 193 時間で利用率 7%と例年の 2 割程度にとどまった。また、令和 2 年 6 月 19 日～令和 3 年 9 月 30 日まで収容人数 50%以下、席数 50 席以内で利用を依頼していることもあり、利用人数は 800 人と、例年の 1 割にも満たなかった。

利用状況	30 年度	R1 年度	R2 年度
利用日数	128	105	25
利用時間	1,088	900	193
利用率	38%	31%	7%
利用人数	9,376	8,429	800

曜日別利用状況	月	火	水	木	金	土	日	年間
利用件数	1	2	1	6	5	6	5	26
内自己使用件数	0	0	1	3	1	0	0	5
R2 年度年間利用率	2%	4%	3%	12%	10%	12%	10%	8%
R1 年度年間利用率	25%	10%	17%	20%	25%	67%	55%	32%

1 日に複数の利用がある場合があるので、利用件数は、利用日数を上回る。

利用件数は 26 件、自己使用を除くと 21 件の利用しかなく、開館日数で割った年間利用率は 8%だった。例年は利用が土日に集中するが、令和 2 年度の利用は、全体に低調だったことに加え、集客イベント以外の利用もあったことから、土日と平日で利用が分散した。

利用団体数は 15 団体。集客イベントとして実施されたのは、NPO によるシンポジウム・上映会(1 件)、愛好会・グループでのコンサート・発表会(8 件)、市民劇団の演劇(3 件)、企業(営利用)のコンサート(1 件)、自己使用（市民協働推進課）のワークショップ(5 件)のみ。

一方でオンライン配信やコンテスト応募のための動画撮影が 5 件あった。

利用団体種別	団体数		
	H30 年度	R1 年度	R2 年度
NPO	31	16	1
愛好会・グループ	22	18	9
市民劇団	4	6	2
実行委員会	5	5	1
教室	6	3	0
企業	2	7	2
各種団体	8	1	0
個人	2	3	0
利用団体合計	80	59	15
自己使用	1	1	1
合計	81	60	16

使用内容	開催件数			
	R1 年度	割合	R2 年度	割合
シンポジウム・講演会	6	6%	6	19%
交流イベント	20	19%	3	9%
演劇	13	12%	3	9%
コンサート	27	25%	4	13%
上映会・展示会等	3	3%	1	3%
発表会	6	6%	5	16%
リハーサル(稽古)	7	6%	3	9%
仕込・撤収	6	6%	1	3%
その他	20	19%	5	16%

使用内容は、複数回答にて集計。

2-3. 共同事務室（事務用ブース）

◆第22期事務用ブース入居団体◆（承認期間：令和2年9月～令和3年8月）

令和3年3月末時点

- ・ブース No. 1 一般社団法人 仙台eスポーツ協会
- ・ブース No. 2 女性の自立 SNS 研究会（令和3年2月より入居）
- ・ブース No. 5 NPO 法人水・環境ネット東北（令和2年9月より入居）
- ・ブース No. 6 一般社団法人 SC.FIELD（令和3年5月に退去予定）
- ・ブース No. 7 NPO 法人 経営体質改善サポート宮城（令和3年5月に退去予定）

事務用ブースは、第21期（承認期間：令和元年9月～令和2年8月）は、継続して7団体が入居していたが、令和2年8月で4団体が退去（期間満了3団体、事務所移転1団体）。令和2年9月より新規に1団体が入居し、第22期（承認期間：令和2年9月～令和3年8月）は4団体入居でスタートした。令和3年2月より1団体が新規に入居し、令和3年3月末時点で、5団体が入居している。うち2団体は、令和3年5月までで入居期間満了となる。

令和3年6月時点では入居3団体になりことから第23期募集は4ブースとなる。

利用状況は、大幅に減っているが、これも新型コロナウイルス感染防止策でとられた休館措置や17時閉館措置での影響と団体活動の休止を余儀なくされている状況からと思われる。

事務用ブース利用状況	R1 年度	R2 年度
利用件数	571	332
利用人数	1,087	523

（1）情報交換会

コロナ禍ではあるが感染予防対策をした上で、入居団体が個々に持つ資源や情報を入居団体同士で交換するための「情報交換会」を実施した。令和2年度は、9月と12月と2月に開催。9月と2月は、新規入居があったため各既存入居団体への紹介を主な目的として開催し、12月は、各団体の情報交換及びコロナ禍での施設運営状況の説明を行った。

□令和2年9月18日（金）

- ・入居団体4団体 計4名、市民協働推進課1名、サポートセンタースタッフ2名
- ・新規入居団体の紹介、入居団体より活動報告と今後の予定、情報交換・交流

□令和2年12月18日（金）

- ・入居団体4団体 計4名、市民協働推進課1名、サポートセンタースタッフ2名
- ・入居団体より活動報告と今後の予定、情報交換・交流、コロナ禍での施設運営

□令和3年2月9日（火）

- ・入居団体5団体 計6名、市民協働推進課1名、サポートセンタースタッフ2名
- ・新規入居団体の紹介、入居団体より活動報告と今後の予定、情報交換・交流

2-4. ロッカー、レターケース

ロッカー、レターケースでは第22期（承認期間：令和2年9月～令和3年8月）の募集を行った。募集数は、大16台、中28台、小60台。応募数が設置台数を超えることがなかったため、1団体2台まで利用可、ただし、台数の少ない大の2台使用は不可として二次募集を行った。

ロッカーの令和2年度年間平均利用率は、大100%、中91%、小76%となり、大は全て埋まっている状態を維持したが、中、小とも使用率が下がった。使用を期間途中で取りやめたり、継続しなかった結果だが、その理由は、コロナ禍を受けて活動の停止や休止を理由とすることであった。

年平均利用状況		R1 年度	R2 年度	年度差
ロッカー 利用状況 (利用率)	大	100%	100%	—
	中	97%	91%	▲8pt
	小	75%	63%	▲13pt
	全体	85%	76%	▲15pt
レターケースの利用状況 (利用率)		56%	54%	▲2pt
レターケース 取次ぎ件数	郵便（件）	1792	1405	▲ 387
	FAX（件）	198	71	▲ 127

ロッカー 種別	設置数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 利用率
大	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	100%
中	28	27	26	26	26	26	25	25	25	25	25	25	25	92%
小	60	42	41	41	41	41	35	35	35	35	35	35	35	64%
計	104	87	87	89	90	91	87	87	87	89	88	88	87	83%
月次利用率		82%	80%	80%	80%	80%	73%	73%	73%	73%	73%	73%	73%	73%

レターケースの平均利用率は、54%となり、前年度に回復したと思われたが、令和2年度でまた下がった結果となった。これもロッカーと同様にコロナ禍に影響を受けた団体活動の休止や停止からきていると思われる。月次の利用率の推移からも徐々に下がってくる。

取次件数も令和2年度は、1,476件で、前年度1,990件、平成30年度2,050件と減少傾向は続くが、コロナ禍での活動の低調も相まってより減少している。

レターケース 利用数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 利用率
設置数 168	95	96	96	96	96	85	85	85	85	86	88	88	54%
月次利用率	57%	57%	57%	57%	57%	51%	51%	51%	51%	51%	52%	52%	

レターケース 取次件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均 件数
郵便	158	168	130	89	89	83	84	73	91	174	91	175	1405	117
FAX	5	1	9	0	1	14	1	1	7	4	17	11	71	6
計	163	169	139	89	97	97	85	74	98	178	108	186	1476	123

■活動報告書

ロッカー、レターケース利用団体には年 2 回、事務用ブース利用団体には年 4 回活動報告書を提出いただいているが、「活動休止」との報告が顕著となった。

提出方法についても、例年は施設利用の際に窓口で提出する団体が多いが、令和 2 年度は郵送やメールでの提出が大半で、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため外出自粛が続いていることがここからもうかがえる状況である。

【ロッカー・レターケース利用団体】

①第 21 期 令和 2 年 3 月～令和 2 年 8 月分→9 月提出締め切り

対象：111 団体

②第 22 期 令和 2 年 9 月～令和 3 年 2 月分→3 月提出締め切り

対象：104 団体

【事務用ブース入居団体】

①第 21 期 令和 2 年 3 月～令和 2 年 5 月分→6 月提出締め切り

対象：7 団体

②第 21 期 令和 2 年 6 月～令和 2 年 8 月→9 月提出締め切り

対象：7 団体

③第 22 期 令和 2 年 9 月～令和 2 年 11 月→12 月提出締め切り

対象：4 団体（9 月新入居団体 1、退去団体 4）

④第 22 期 令和 2 年 12 月～令和 3 年 2 月→3 月提出締め切り

対象：4 団体

2-5. パソコン、印刷機、コピー機

■パソコン

臨時休館、サービスの一部停止等を受け、令和2年9月まで利用停止となっていた利用者パソコンの利用は、令和2年度70件となった。一次再開するものの利用はほぼなく、毎年利用減少が続いていることもあり、必要性はかなり薄い。

パソコン 利用状況	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
合計	1,338	1,064	900	738	70

利用者 PC 利用件数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
H29 年度	116	118	97	93	108	100	92	87	68	65	42	78
H30 年度	81	80	83	84	79	75	80	65	59	69	65	80
R1 年度	90	95	88	57	33	57	77	52	58	49	74	8
R2 年度	0	0	0	0	0	4	1	13	13	9	7	23
R2 年度の 前年増減	-90	-95	-88	-57	-33	-53	-76	-39	-45	-40	-67	15
R2 年度の 前年対比	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.0%	1.3%	25.0%	22.4%	18.4%	9.5%	287.5%

■印刷機

年々減少を重ねてきた印刷機の利用が、令和2年度は件数351件、枚数333,893枚と前年度と比べて件数で▲603件、枚数で▲612,743枚と利用が激減した。令和2年4月4日、4月11日～4月24日は18時まで、令和2年4月25日～5月31日、令和3年3月27日～4月11日は17時までの利用と時間制限はあったものの、臨時休館中も印刷機貸出は継続しており、激減の要因としては、市民活動団体の活動自粛が続いていることその他、コロナ禍で、デジタル媒体への移行が進んだことも推測される。

印刷機 利用状況	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
利用件数(件)	1,225	1,040	1,064	954	351
利用枚数(枚)	1,038,298	1,052,835	1,041,908	946,636	333,893

印刷機 利用件数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
H29 年度	142	119	104	86	92	88	67	86	49	67	53	87
H30 年度	140	113	80	88	76	95	90	76	71	64	84	87
R1 年度	128	106	87	84	59	80	90	82	67	68	62	41
R2 年度	30	27	30	32	26	28	40	41	17	26	20	34
R2 年度の 前年増減	-98	-79	-57	-52	-33	-52	-50	-41	-50	-42	-42	-7
R2 年度の 前年対比	23.4%	25.5%	34.5%	38.1%	44.1%	35.0%	44.4%	50.0%	25.4%	38.2%	32.3%	82.9%

印刷機 利用枚数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
H29 年度	172,202	128,846	89,334	86,077	76,007	79,634	69,951	90,427	47,764	72,449	59,146	80,998
H30 年度	167,612	108,395	72,648	110,242	68,662	78,477	79,663	73,127	61,313	60,309	77,476	83,984
R1 年度	120,542	99,421	66,211	81,644	57,897	73,680	97,838	91,675	77,069	52,260	55,653	72,746
R2 年度	35,022	26,771	23,677	26,614	24,882	31,000	34,723	31,926	24,455	26,791	17,911	30,121
R2 年度の 前年増減	-85,520	-72,650	-42,534	-55,030	-33,015	-42,680	-63,115	-59,749	-52,614	-25,469	-37,742	-42,625
R2 年度の 前年対比	29.1%	26.9%	35.8%	32.6%	43.0%	42.1%	35.5%	34.8%	31.7%	51.3%	32.2%	41.4%

印刷物の内訳では、印刷件数全体が激減する中で、定期配布を使命とする媒体であるニューズレターは前年度と同じ 85 件となった。一方で、チラシやその他の印刷物は減少。コロナ禍で団体活動が停滞していることの表れとも推察できるが、コロナ禍を機会としてネットでの広報・オンライン会議などデジタル媒体への移行がさらに進むことの予兆である可能性もある。印刷については、ネットプリントの普及や簡易、安価に多色印刷ができる環境が身近になったことでも今後の需要は不透明といえる。

印刷機	印刷物の内訳		
	チラシ	ニューズ レター	その他
4 月	2	5	24
5 月	4	4	21
6 月	8	4	19
7 月	7	9	15
8 月	6	5	18
9 月	10	5	12
10 月	20	8	14
11 月	9	12	20
12 月	4	8	6
1 月	7	8	11
2 月	3	5	10
3 月	8	12	14
計	88	85	184
R1 年度	285	85	592

一度の印刷で、「チラシとニューズレター」というように複数の物を印刷する場合があるため、内訳の合計と印刷利用件数は一致しない。

■ コピー機

コピー機の利用枚数は例年の半数程度にとどまった。コピー機は、貸室やフリースペース、印刷機利用時に同時に利用されることが多いことから、貸室やフリースペースの利用制限に伴い、利用が減少したと考えられる。

コピー 利用状況	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
利用枚数(枚)	14,720	9,081	10,217	13,614	4,789

パソコン、印刷機、コピー機は、利用件数が年々減少傾向にあったが、コロナ禍の状況で、設備サービスの在り方または、設置台数、サービス機能に検討が必要になっていくと思われる。

3. 情報の収集・提供

3-1. 情報揭示等利用

市民活動団体のチラシ、ポスター、ニューズレターなど情報揭示利用累計件数は 2,297 件で、前年度比 64%と減少した。種別に前年度比を見てみると、ポスター44%、チラシ 52%、ニューズレター90%となっている。定期刊行物であるニューズレターは前年度比 90%と落ち込みが少なかった一方、イベントの広報物であるポスター・チラシは半数程度に減少した。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、イベント等の開催自粛が見られた一方、イベントのオンライン移行により、ウェブによる情報発信に力を入れる団体も見られた結果、チラシやポスターの受付が減少していると考えられる。

情報揭示等利用件数	H30 年度	R1 年度	R2 年度
チラシ	2,321	2,161	1,134
ポスター	268	280	124
ニューズレター	1,233	1,159	1,039
計	3,822	3,600	2,297

「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（通称：骨プロ）」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市内公共施設が臨時休館や情報閲覧スペースを休止したことを受け、令和 2 年 4 月 11 月から 9 月 30 日まで休止。その間に、新しい生活様式や施設の臨時休館等に即した、情報受発信支援の在り方について再検討した。連携施設への事前アンケートや令和 2 年 9 月 4 日に実施した会議での意見交換を踏まえ、令和 2 年 10 月から、「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（通称：骨プロ）」を「市民活動イベント掲示板」にリニューアルし、受け付けた市民活動団体のイベントチラシをサポートセンターのホームページ上に画像で掲示し、希望により各連携施設への配送も行うこととした。

骨プロ利用件数	H30 年度	R1 年度	R2 年度
年度計	837	763	163

R2 年度は「市民活動イベント掲示板」の令和 2 年 10 月～令和 3 年 3 月の利用件数

令和 2 年 10 月～令和 3 年 3 月の「市民活動イベント掲示板」の利用状況は、ホームページ掲載のみを希望 41 件、各連携施設への配架のみを希望 13 件、ホームページ掲載＋各連携施設への配架双方を希望 109 件となった。紙媒体でのみの広報を希望する団体（各連携施設への配架のみ希望）は全体の 8%と少なく、ウェブでの広報が中心となっている団体（ホームページ掲載のみ希望）が全体の 1/4 と一定数あることがわかった。双方の利用を希望している団体の中には、ウェブによる情報発信を不得手としていたり、ウェブ媒体を持たなかったりする団体もあることが利用者との会話から確認されており、「市民活動イベント掲示板」がウェブでの情報発信支援につながっている。

■骨プロ（市民活動イベント掲示板）参加施設（令和3年3月末時点10施設）

連携団体は、チラシの配架と施設ホームページ内に「市民活動イベント掲示板」のリンクバナーを設置

せんだいメディアテーク

日立システムズホール仙台

令和2年度は施設改修工事のため施設ホームページにサポートセンターホームページ内「市民活動イベント掲示板」のリンクバナーを設置のみで参画した。

エル・パーク仙台

エル・ソーラ仙台

仙台市ボランティアセンター

のびすく仙台

のびすく泉中央

のびすく長町

せんだい環境学習館 たまきさんサロン

仙台市市民活動サポートセンター

3-2. 団体情報の蓄積

団体情報は、サポートセンターに持ち込まれたチラシを保存し蓄積してきたもので、サポートセンター利用者を軸にした市民活動団体の情報である。これらのファイルは、市民活動団体の活動状況のアーカイブとしての機能を果たしている。

令和3年3月末時点での団体情報ストック数は県内外あわせ 4,898 団体で、前年度から 149 件増加した。これは、令和2年度に 149 団体の新規利用があったわけではなく、ここ数年蓄積してきたチラシ等のストック情報の処理作業が完了したことによるものである。なかでも増加した分野は「まちづくり」で、前年度よりも 55 件増え、次いで「文化・芸術」が 24 件、「子ども・教育」が 20 件増加した。また、ストック情報の見直し・整理を行ったことで、分野の移動や県外から県内へ移動したものがある。

分野	情報利用 *1			
	団体数	構成比	県内	県外
福祉	560	11%	480	80
健康・医療・スポーツ	489	10%	413	76
環境	628	13%	437	191
まちづくり	619	13%	546	73
子ども・教育	625	13%	505	120
人権・ジェンダー	379	8%	272	107
国際交流・協力	346	7%	217	129
文化・芸術	723	15%	635	88
市民活動支援	342	7%	107	235
その他	187	4%	150	37
計	4,898	100%	3,762	1,136
R1 年度累計蓄積数	4,749		3,618	1,131
前年度比	103%		104%	100%

*1 情報利用：団体情報の蓄積数

3-3. 市民活動団体への情報提供

サポートセンターでは、市民活動に役立つ情報をテーマごとに編集した「市民活動お役立ち情報」を利用者向けに提供している。これは館内のチラシラックに配架し、自由にお持ち帰りできるほか、ホームページからもダウンロードできるようにしている。このサービスは必要なテーマだけ自由に選択できることもあり、好評である。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により窓口サービス休止期間があったことなどの影響で来館者数が減少したため、例年より1,500～1,700枚ほど印刷数が少なかった。しかし全体の印刷数は大幅に減少しているにもかかわらず、「N0.5 ボランティア相談窓口」は減少幅が小さく、最も人気があった。このことから、コロナ禍においても市民の市民活動への参加意欲や関心が高いことが伺える。次いで多かったのは「N0.6 助成金のいろは」だった。令和2年度はコロナ禍の影響を受けた市民活動団体を対象にした助成金も数多く出されたこともあり、助成金など資金調達に関する情報提供のニーズが高いことが伺える。

■お役立ち情報 印刷状況（令和2年度累計）

NO.	テーマ	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
1	NP0ってなんだろう？	370	390	350	190
2	チラシ・ポスターを置けるスペース	420	410	470	210
3	市民活動団体が利用できる機材一覧※1	270	220	0	190
4	仙台市内ホールマップ	270	290	390	190
5	ボランティア相談窓口	270	350	360	320
6	助成金のいろは	450	320	440	300
7	規約の作り方	320	310	380	190
8	報告書の作り方	270	280	310	190
9	メディア活用大作戦	370	315	300	190
10	名義後援って、どうやって受けるの？	270	260	290	240
11	チラシを作るコツ	520	530	460	210
12	イベント実施ノウハウ	420	350	400	190
13	企画書作成の方法とポイント※2		350	380	190
	合計	3,280	4,375	4,530	2,800

※1「N0.3 市民活動団体が利用できる機材一覧」は更新作業に伴い、令和元年度の印刷枚数0枚。

※2「N0.13 企画書作成の方法とポイント」は平成30年5月から配架。

3-4. 図書の貸出

令和2年度の図書貸出件数は53件（前年度比55%）、貸出冊数は72冊（前年度比56%）と減少した。5月の臨時休館中は貸し出しサービスも休止していたが、貸出再開した6月から3月まで毎月利用があった。新規登録者の減少は、来館者の減少に比例していると考えられる。地元史やまち物語などの人気書籍に加え、女性の貧困、生活困窮、自殺防止や東日本大震災関連など、社会情勢に関連した資料を展示した際は、特に件数が伸びた。

図書登録者数 貸出件数	H30 年度	R1 年度	R2 年度
登録者数（人）	33	28	13
貸出件数（件）	80	97	53
貸出冊数（冊）	118	129	72

■ 図書の展示のテーマ

月1回、展示内容を変更し、本を通じて様々な分野の課題や活動に触れてもらう機会をつくってきた。展示する書籍の選定は、社会情勢に加え、マチノワギャラリーの展示内容や「いづいっちゃんねる」等の主催事業のテーマに関連したものとし、書籍をきっかけに他事業への関心を高めてもらえるよう工夫した。

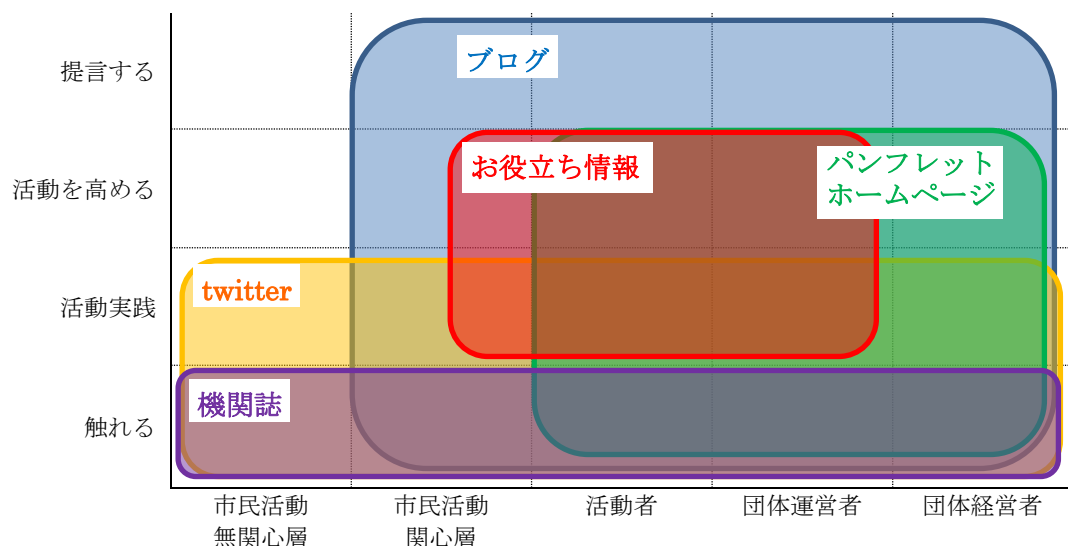
開始	展示内容
4月～	国際交流、国際支援、地域活動事例、地元学に関連するもの
6月～	「日本駆け込み寺」、路上生活者支援、人権擁護に関連するもの
7月中旬～	仙台七夕、「仙台に夜間中学をつくり育む会」に関連するもの
8月下旬～	「NPO こよみのあしおと」、環境問題、貧困問題に関連するもの
10月～	文化芸術、セクシャルマイノリティ、心のケアに関連するもの
11月～	スポーツ振興、子育て、障害者支援に関連するもの
12月～	ファンドレイジング、寄付活動、活動ノウハウに関連するもの
1月～	復興支援活動に関連するもの①、障害者支援、人権擁護に関連するもの
2月～	復興支援活動に関連するもの②、当事者支援、新着図書
3月～	復興支援活動に関連するもの③、地域活動事例、新着図書

3-5. 情報発信

より多くの方へサポートセンターの情報や市民活動、協働によるまちづくりに関する情報を届けるため、対象を市民活動無関心層から団体経営者層まで5段階に分け、情報発信を行っている。

令和2年8月からは、ローカルニュースサイト TOHOKU360 と協働で動画配信番組「いづいちゃんねる」をスタート。仙台市を中心に県内で課題解決に取り組んでいる団体の生の声を届けることで、番組を見た人が課題解決に向けた小さな行動を起こすきっかけをつくった。

これまでサポートセンターが培ってきた広報戦略のノウハウは、広報に課題を抱える他機関にも役立てられている。生涯学習支援センターが主催する、市民センター職員等を対象としたスキルアップ研修では、「広報講座」の依頼を受けており、令和2年度で6回目となった。講座に出向くことで、他機関にサポートセンターの機能や連携の窓口をPRすることにもつながっている。



(1) サポートセンター通信『ぱれっと』の発行

市民活動無関心層から団体経営者層まで幅広い対象に、多様な主体の協働によるまちづくり事例や活動参加への一歩につながる情報に触れ、興味関心を高めてもらうことを目指し、フリーペーパーのスタイルで発行した。

令和2年度は、市民ライターによる取材記事以外にも、サポートセンター主催事業の参加者からの声を集めたり、市民から寄せられた情報を掲載することで、発信する情報に「仙台の市民活動を市民が伝える」という付加価値を付けることができた。

また、新型コロナウイルスの影響により、社会情勢の変化が著しい中、市民活動の現場で起こっている状況に柔軟に対応するため令和2年7月号から紙面をA4両面での紙面構成に変更した。(集計一覧：資料11「サポートセンター通信『ぱれっと』発行状況」参照)。

『ぱれっと』コーナー名	概要
ワクワクビト	仙台の街をワクワクさせる人物をワクワクビトとして紹介。「人」に焦点をあて、その活動内容への思いや取り組む社会課題を発信。市民ライターとの連携による記事も掲載。
協働	企業、NPO、行政、商店街、教育機関などがコラボレーションし、地域の課題解決や魅力向上に取り組む事例を紹介。
市民活動 突撃レポート	筆者（市民）を主語にして、市民目線での印象や感想などを盛り込んだ取材日誌。
今、私にできること	コロナ禍の中で立ち上がった取組みを紹介。
お役立ち本	サポートセンター図書コーナーから活動に役立つ本を紹介。
コトハジメ	「地域のために何かしたい、何か始めたい」という人たちのはじめの一步になる活動を紹介。
活動に+（プラス）	活動をレベルアップさせられるようなイベントなどを紹介。
募集して☑	市民活動やボランティアを支えるヒト、モノ、コトを紹介。
このたびカタチになりまして	記念誌や調査報告、MAP や書籍など活動の成果物を紹介。
私のあしあと	サポートセンターの事業参加者による体験談等
気になる〇〇	読者自身が今気になっている社会課題や実践しているちょっと社会にイイコト等を投稿し、他者の一步を後押し。

（２）ホームページの管理

ホームページでは、サポートセンターの機能紹介と事業に関する告知等を行った。ユニークユーザーは 19,608 件（前年度 30,123 件。前年度比 65%）。ページビューは 95,659 件（前年度 134,980 件。前年度比 71%）で、ユニークユーザー、ページビューともに減少した（集計一覧：資料 10「ホームページ アクセス件数集計表」参照）。ホームページでよく見られるページは、貸室の案内や施設へのアクセス方法のページであり、施設の臨時休館や利用制限、利用の自粛により利用者が減少したことで、ホームページのアクセス数が減少したと考えられる。

(3) ブログの管理

サポートセンターの日常的な情報発信ツールとして、主催事業の告知や実施報告、市民活動情報、東日本大震災に関連する情報を掲載した。令和2年度は、コロナ禍での市民活動を支援する助成金情報や、新しい生活様式下でのボランティア募集のほか、困難を抱えている人のためのお役立ち情報など、現在の社会情勢に合わせた幅広い情報収集と発信に力を入れ、記事の投稿数も前年度比 138%と大きく増加した。これをうけて訪問者数（ユニークユーザー）前年度比 141%、閲覧数（ページビュー）前年比 131%と、どちらも前年度を大きく上回った。

市民活動団体の取り組み発信を通じて、ホームページを持たない団体と、主にインターネットで情報収集を行う市民との橋渡し役ができた。団体からは「これまで問い合わせの無かった若い人から問い合わせがあった」等の喜びの声がサポートセンターに届いている。ブログ記事で団体の具体的な活動内容を発信できたことが、活動に一步踏み出せずにいた市民の後押しにつながったものと思われる。

前年度に引き続き、市民ライターの活躍の場としても活用。今年度からはじまった「いづいっちゃんねる」では、視聴した感想を寄稿してもらった。

多様なニーズに対応できる鮮度の高い情報発信を維持していけるよう、引き続き体制整備を行うと共に、ホームページ等へ誘導する工夫も続けていく。

ブログ投稿記事数およびアクセス数			
R2 年度	記事数	訪問者数 (ユニークユーザー)	閲覧数 (ページビュー)
4 月	33	3,659	49,702
5 月	40	4,802	53,533
6 月	37	4,457	72,485
7 月	37	5,058	71,344
8 月	38	4,666	79,796
9 月	35	5,069	6,9751
10 月	34	4,422	68,188
11 月	31	4,932	61,485
12 月	26	5,167	5,6495
1 月	29	4,879	57,073
2 月	30	5,257	64,583
3 月	34	5,123	72,644
計	404	57,491	777,079
R1 年度	292	40,839	593,184

(4) twitter の管理

休館日案内、ホームページ、ブログの更新状況等、サポートセンターからのお知らせを拡散させるため twitter を運用した。

平成 23 年から開設し、平成 30 年 3 月末にはフォロワーが 2,000 人を超えたが、令和元年度、作業中のトラブルでアカウントが凍結。再設定することとなり、一旦フォロワーが 0 人の状態となったが、令和 3 年 3 月末には 450 人強まで戻ってきている。

サポートセンターのブログや twitter で発信した情報に対し、市民活動団体や、ぱれっとの掲載団体が反応し、各自の SNS で発信することで、情報が拡散されている。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からも、オンライン会議やオンラインセミナーも一般化してきており、今後 SNS の重要度は増していくものと考えられる。

4. 相談・問い合わせ対応

【参照：資料 12-1、12-2、12-3】

(1) 目的

市民活動支援施設として、①施設の活用を含めた利用相談(施設利用)、②市民活動に関わる情報発信及び収集支援(施設サービス)、③専門性を要する市民活動を行う上での個別の運営等の相談(活動相談)を実施し、個人から団体、行政や企業など幅広い主体者に対し、情報の提供や経営相談など専門的な幅広い支援を行う。

(2) 概要

施設開館時間内に、予約の有無を問わず、市民活動に関わる相談を無料にて実施する。主に窓口にて行う施設利用判断や市民活動団体の情報提供と、NPO 法人の立ち上げや団体運営や資金調達など個別の事案に対して、窓口や電話を問わず相談対応する個別対応がある。

(3) 集計方法に関して

相談事業の集計項目は、相談者主体については、市民（個人）、市民活動団体、町内会、企業（営利組織）、大学（教育機関）、行政、その他に分類。また、対応内容については、自立、連携、創発、情報、その他に分類した。集計結果については次の3種類の方法で行っている。

①相談サマリー

貸室利用やチラシ配架など、施設利用の問合せを【窓口】、活動内容や運営相談などを【相談】、これらに当てはまらない対応を行った場合に【その他】、事業参加者の所属を集計する【事業】に分類。事業参加者の意見も合わせて記録することにより、利用者サービスの向上に役立てている。ただし、センター事業に複数回参加した場合はカウントされないため、各事業参加者の総数と相談サマリーにおける【事業】集計は一致しない。

②相談集計結果【主訴－相談主体】

上述の相談サマリーのうち【相談】について、相談主体の属性と相談主訴を詳細に集計した。自立・連携・創発の理念に基づいた12項目と細かい分類を行うことで、相談主体の状況に合わせた対応記録と、より具体的な相談の傾向を把握し、相談ニーズの分析を目指した。横軸の【伴走】については、サポートセンター事業「伴走型相談による個別相談」該当候補の相談に関して、新規相談もしくは継続対応について集計した。

③相談集計結果【内容－相談者】（複数選択あり）

例えば、NPO 法人と協働する団体が同席した対応や、団体立上げ相談の内容から助成金の相談に移行した場合など、複数の属性や内容を集計するため、対応した全ての内容・相談者を記録し、かつ複数選択を含めることで、柔軟に対応する集計を行った。

(4) 成果

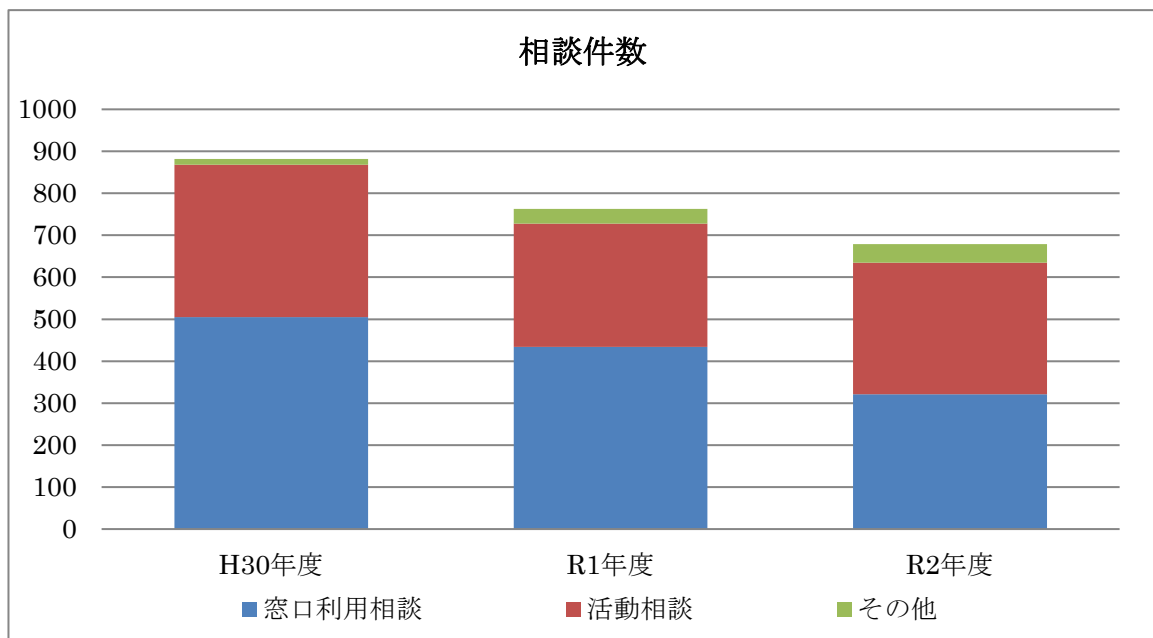
①相談件数

令和2年度の相談件数は679件（前年度763件、前年度比89%）と減少し、平成30年度の882件（年度比76%）と比べると大幅に減少した。

相談の内訳としては、「窓口利用相談（窓口）」は321件、「活動相談（相談）」は314件、「その他」44件だった（集計一覧：資料12-1「相談・問合せ対応記録集計表」参照）。「窓口利用相談」は前年度434件と比較すると74%と減少した一方、「活動相談」は前年度の294件と比較すると107%、「その他」は前年度の35件と比較すると126%と増加した。

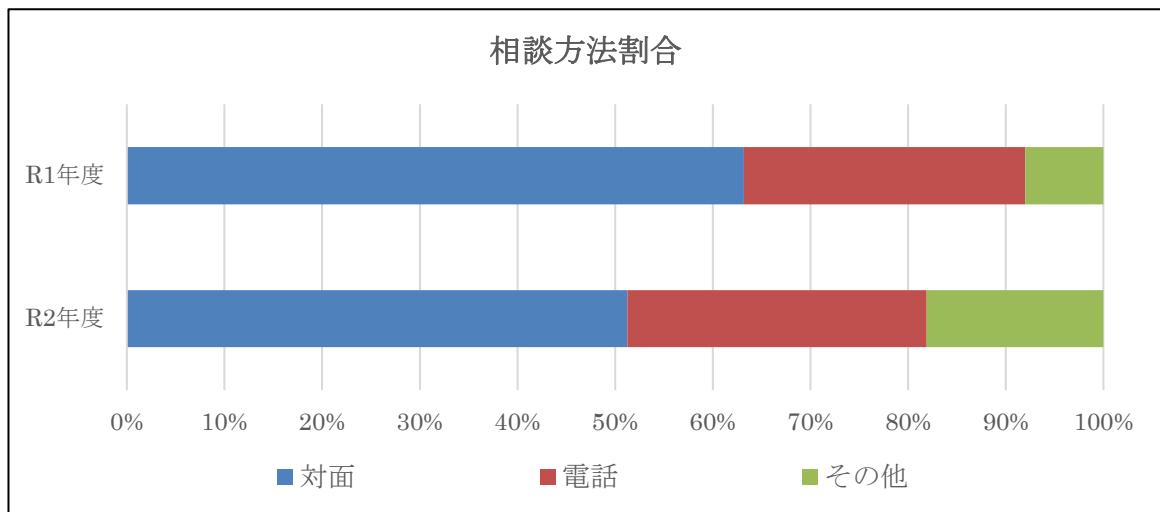
臨時休館や利用自粛により施設利用が減少したことから「窓口利用相談」は減少した。施設の利用状況よりも減少幅が小さい要因として、市民センターなどをはじめとした市内の他の公共施設が、新型コロナウイルス感染拡大による休館や、ワクチンの接種会場の指定を理由とした利用制限となったため、それまでサポートセンターを利用していなかった団体が「利用することが出来るか」などの問い合わせがあったことがあげられる。「窓口利用相談」のうち新型コロナウイルスに関連した相談は70件と全体の22%であった。

社会状況などの変化で「活動相談」は増加。活動相談のうち、新型コロナウイルスに関連した相談は120件と活動相談全体の38%を占めた。また、コロナ禍での活動について、貸室等の申し込みに来た団体に対してのヒアリングや、メールやSNSなどでスタッフからコロナ禍での活動状況について情報収集をしたことから、「その他」も増加した。



②相談方法

相談・問合せの方法は来館による「対面」では 348 件と前年度の 482 件（前年度比 72%）より減少したが、「電話」は 208 件と前年度の 220 件（前年度比 95%）とほぼ同水準となった。ホームページの問い合わせフォームやメールによる相談などが含まれる「その他」は 123 件で前年度の 61 件（前年度比 202%）よりも増加。特に、活動相談における「その他」の相談方法は前年度 8 件の 6 倍にあたる 48 件で、大幅に増加した。スタッフがコロナ禍での活動状況についてメールや SNS 等で情報収集したことなどが大きく影響したと考えられる。

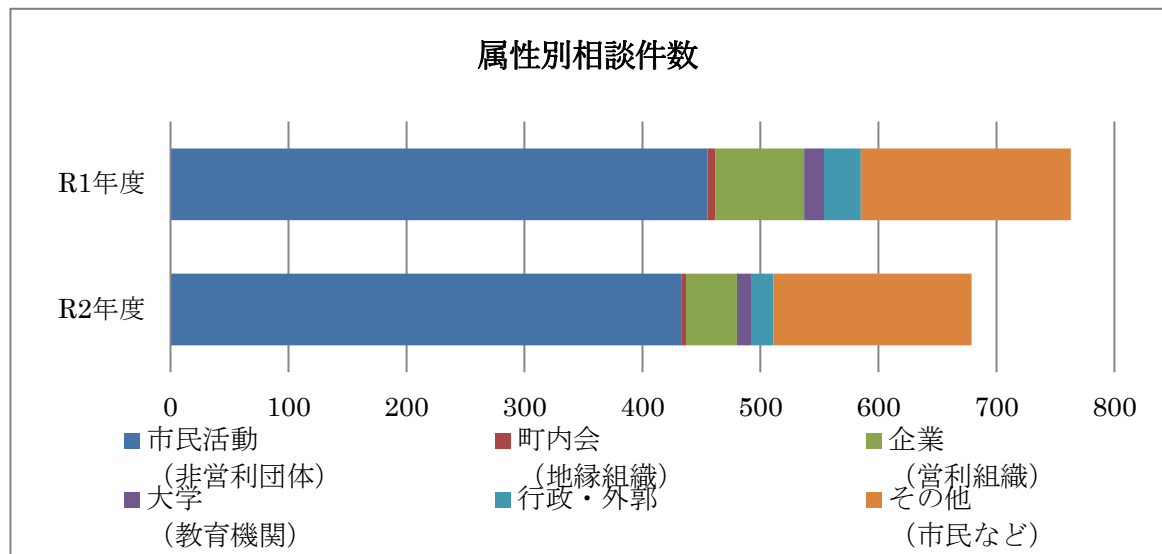


③相談者の属性

相談者の属性は、前年度と比較すると相談件数全体の減少（前年度比 89%）に伴い、全体的に減少の傾向だった。その中で、市民活動（非営利団体）は前年度比 95%、その他（市民など）は前年度比 94%とあまり変化はみられなかったが、それ以外は大幅に減少した。

属性別の具体的な数字は以下の表の通り。

属性	R1 年度		R2 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
市民活動（非営利団体）	455 件	60%	432 件	64%	95%
町内会（地縁組織）	7 件	1%	4 件	1%	57%
企業（営利組織）	75 件	10%	43 件	6%	57%
大学（教育機関）	17 件	2%	12 件	2%	71%
行政・外郭	31 件	4%	20 件	3%	65%
その他（市民など）	178 件	23%	168 件	25%	94%
全体	763 件		679 件		89%



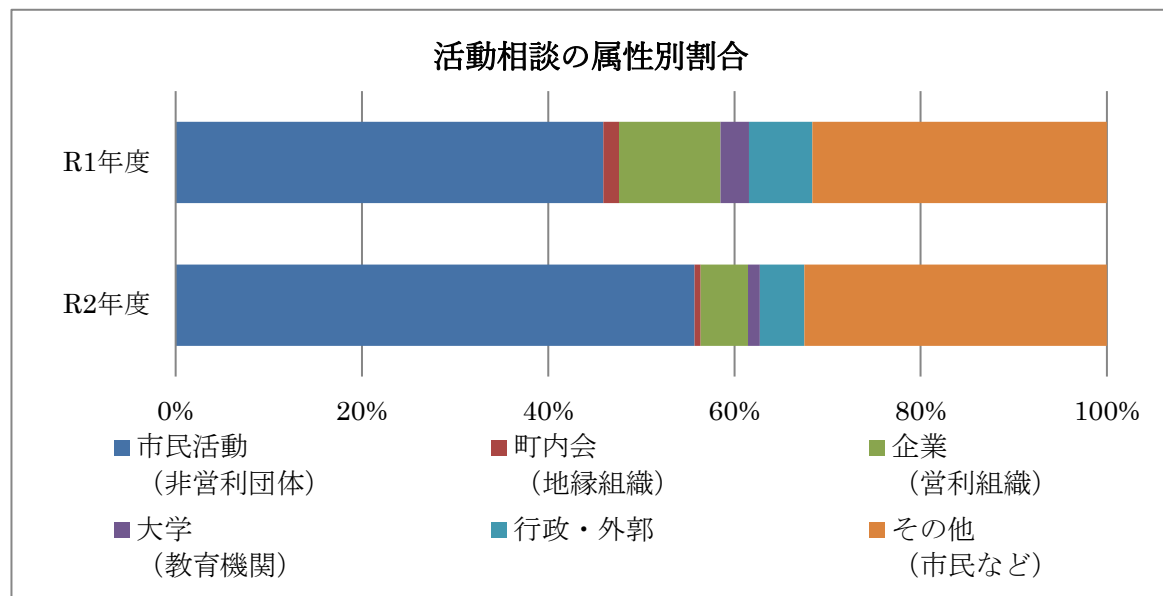
④活動相談における属性別相談件数

活動相談は令和2年度は314件（前年度294件、前年度比107%）と微増した。属性の割合では市民活動（非営利団体）は件数・割合ともに増加。その一方、その他の属性ではその他（市民など）を除き件数・割合共に減少した。

属性別の具体的な数字は以下の表の通り。

属性	R1 年度		R2 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
市民活動（非営利団体）	135 件	46%	174 件	55%	129%
町内会（地縁組織）	5 件	2%	2 件	1%	40%
企業（営利組織）	32 件	11%	16 件	5%	50%
大学（教育機関）	9 件	3%	4 件	1%	44%
行政・外郭	20 件	7%	16 件	5%	80%
その他（市民など）	93 件	32%	102 件	32%	110%
全体	294 件		314 件		107%

市民活動（非営利団体）の件数が増えた要因として、貸室の申し込みなどで来館された際になどに市民活動団体からもコロナ禍での活動状況について相談があったこと、スタッフが積極的に活動状況のヒアリングを実施したことがあげられる。市民活動（非営利団体）の活動相談の中で新型コロナウイルスに関連した相談は120件で全体の69%を占めた。



⑤相談主訴

活動相談の主訴を「自立」「連携」「創発」「情報」「その他」の各段階に分類すると「自立」が137件で最多。「連携」16件、「創発」8件、「情報」87件、「その他」66件（集計一覧：資料12-1「相談・問合せ対応記録集計表」参照）となり、サポートセンターに寄せられた活動相談の半数近くが「自立」段階の相談だった。新型コロナウイルスに関連した相談は「自立」の段階では58件と4割程度となった。

一方で「創発」の段階の相談（制度等の相談、政策提言について）は、少数の状況が続いている。平成29年度から平成30年度にかけては2件から7件へと増加しており、令和2年度ではコロナ禍の中でも8件と微増した。相談の内容としては「仙台市市民協働事業提案制度」に関する相談が7件だった。

⑥相談主体別-相談主訴

相談主体別に相談主訴を見ると、任意団体（非営利団体）では「組織運営基盤に関する相談」が25件で最多となった（集計一覧：資料12-2「相談集計結果【主訴-相談主体】」参照）。次いで「課題解決に取り組もうとする段階の相談」が23件と、活動の立ち上げ段階の相談ニーズが高いことがわかる。主に寄せられた相談は、法人化の方法、助成金の申請や運営資金といった資金調達に関する相談など。現在の社会情勢を反映し、「コロナ禍もあり活動を終了する」といった相談も寄せられた。また「情報収集・情報提供」は22件と前年度の11件から大幅に増加。連携先や助成金情報の収集、コロナ禍の活動状況についてなどの情報提供であった。

NPO法人については「情報収集」を主訴としている相談が最多となり13件。次いで「組織運営基盤に関する相談」が7件で、主に助成金や運営資金に関する相談が寄せられた。税務処理に係る相談において、一部では税理士などの専門職につなぐケースがあった。また「課

題解決に取り組もうとする段階の相談」や「課題発見・企画立案・事業遂行に関する相談」は前年度よりも増加しており、コロナ禍での活動の進め方についての相談があった。

市民（個人）については、「課題解決に取り組もうとする段階の相談」を主訴としている相談が 37 件で最多となった。まだ組織化していない個人からの相談であるため、活動の立ち上げ相談や、それに伴う個人の想いの整理などが多く占めた。この中では公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する「仙台市起業支援センター“アシスタ”」の「起業・創業なんでも相談 DAY」へ相談員を派遣し対応した相談 11 件も含まれている。また「情報収集」も 22 件となっており、この中にはボランティアや社会貢献をしたいという相談や、社会的な困難を抱えており相談先がわからずにサポートセンターに相談するケースも見られた。

⑦相談主体別-相談内容（複数選択あり）

活動相談の内容・相談者について複数選択による集計結果を見ると「自立」「連携」「創発」「情報」「その他」の各段階のうち、「自立」の段階が 195 件と前年度に引き続き最多。「連携」45 件、「創発」が 11 件、「情報」123 件、「その他」89 件だった。（集計一覧：資料 12-3「相談集計結果【内容－相談者】」参照）

相談内容では「情報収集・情報提供」の相談が 123 件と最多であった（前年度 100 件、前年度比 123%）。コロナ禍の中で、他の団体がどのように活動をしているのか、また連携できる団体を紹介してほしいという相談が寄せられた。また市民からは何かしらの事情を抱えた当事者であることからサービスや、それを提供する団体についての相談があり、サポートセンターに多様な相談が寄せられたことがわかる。

「自立」段階の相談では「課題解決に取り組もうとする段階の相談」が 98 件と最多であった。そのうちの半数以上の 50 件は市民活動（非営利団体）からの相談であり、次いでまだ組織化していない個人からは 40 件の相談が寄せられた。このことから相談者の取り組みたい課題を整理する段階から対応できることに対してサポートセンターとして相談のニーズがあることがうかがえる。

⑧その他

仙台市市民協働推進課の仙台市市民協働事業提案制度の事前相談に対応した。市民協働事業提案制度の事前相談は、令和 2 年度のべ 8 件（前年度 6 件）と微増している。

平成 28 年度から継続して、せんだい創業支援ネットワークの構成団体として、公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する「仙台市起業支援センター“アシスタ”」と連携し、「企業・創業なんでも相談 DAY」に出張相談員として参画している。令和 2 年度当初は新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施が見合わされていたが、10 月より相談員派遣を行った。

平成 30 年度から榴岡図書館の事業の一部に計画段階から協力し、図書館と地域との関わりを深める取り組みをコーディネートした。図書館と市民活動団体の間を取り持った結果、令和 2 年度からは、両者が協働していくことになり、必要に応じてサポートセンターが調整や情報提供などを行っていくことになった。

5. 交流・連携・その他

5-1. 外部組織との連携

他組織とサポートセンターの連携を深め、効果的な管理・運営を行うため、下記のネットワーク会議などへ参加や、イベント運営協力を実施した。

連携先	日程	内容
会議・事業連携等		
みやぎ NPO プラザ	5 月 22 日(金)	NPO・市民活動支援施設オンライン情報交換会参加 (1 名)
	6 月 23 日(火) 9 月 17 日(木)	施設使用団体選考審査会 (1 名)
	7 月 11 日(土)	宮城県内 NPO・市民活動支援施設への訪問事業対応 (1 名)
仙台若者アワード	6 月 23 日(火)	打合せ (1 名)
	11 月 26 日(木)	最終審査会
仙台まちづくり若者ラボ	7 月 30 日(木)	打合せ (1 名)
	9 月 18 日(金) 10 月 22 日(木) 11 月 18 日(水) 1 月 14 日(木)	実施協力
環境局	9 月 12 日(土)	環境に関する計画の改定に向けた説明会 (1 名)
仙台市社会福祉協議会	11 月 27 日(金)	評議員会 (1 名)
イベント参加		
NPO 法人コミュニティ・オーガナイズ・ジャパン	11 月 7 日(土)	コロナ時代に私たちができるアクションとは? (1 名)
「新しい東北」官民連携推進協議会	11 月 18 日(水)	みやぎ復興官民連携フォーラム (2 名)
みやぎ NPO プラザ	12 月 13 日(日)	みやぎ NPO フォーラム 2020 (2 名)
多賀城市立図書館	12 月 19 日(土) 12 月 20 日(日)	たがさぼのクリスマス雑貨市 at 多賀城市立図書館 (2 名)
一般社団法人 Granny Rideto	12 月 26 日(土)	東北復興文庫第 1 弾刊行記念トークイベント (1 名)
ラジオ 3	3 月 3 日(水)	震災から 10 年、地域のことを考えると はどういうことなのか (1 名)
	3 月 4 日(木)	地域に関わるとはどういうことなのか (1 名)
その他		
仙台市	11 月 6 日(金)	生活設計合同説明会講師 (1 名)
緑の活動団体検討会議	2 月 4 日(木)	検討アドバイザー (1 名)
仙台防災未来フォーラム 2021	3 月 7 日(日)	ブース出展 (2 名)

5－2．会議・研修

(1) 会議

サポートセンターの管理・運営を円滑に、かつ効果的に行うため、下記のように各種会議（打ち合わせ）を開催した。

○仙台市と指定管理者との定例打ち合わせ

開催頻度：1回／月

所要時間：約2時間／回

内容：管理運営状況の報告・連絡・相談や懸案事項の協議

○施設運営会議

開催頻度：2回／月

所要時間：約2時間／回

構成メンバー：センター長、副センター長、および各主任

内容：各事業の進捗管理とサポートセンター運営に関する課題や懸案事項に関する協議

○ケースミーティング・全体ミーティング

開催頻度：2回／月（休館日活用）

所要時間：1時間／回

内容：相談業務および施設運営管理についての共有や研修

○チームミーティング、部門会議、各事業ミーティング

随時開催

(2) 研修

外部研修では、中間支援組織の新人および職員対象者への全国規模の研修の他、下記の各研修に参加した。また、内部研修として中間支援組織に在職する職員ならば知識として知っておくべき対人援助業務に関するもの、協働、市民活動シアターの施設設備についてなどのさまざまな研修を行った。

外部研修	日程	人数
NPO サポートリンク勉強会「NPO で働くということ」	6 月 25 日(木)	2 名
Yahoo! 基金「NPO の知らせる力プロジェクト書き手講座」	8 月 20 日(木)	1 名
NPO 法人森ノオト「ローカルメディアコンパス体験会」	8 月 22 日(土)	1 名
日本 NPO センター「NPO 支援センター初任者研修」	9 月 4 日(金) 9 月 16 日(水)	2 名
仙台市「令和 2 年度情報管理研修（基礎編）（応用編）」	9 月 22 日(火)	1 名
仙台市社会福祉協議会「ボランティア市民活動ネットワーク会議」	9 月 28 日(月)	2 名
	10 月 22 日(木)	1 名
仙台市「令和 2 年度情報セキュリティ一般職員研修（基礎）演習」	10 月 29 日(木)	1 名
みやぎ NPO プラザ「NPO 支援センター研修」	1 月 22 日(金)	2 名
せんだい演劇工房 10-BOX「舞台スタッフ・ラボ 2020」	2 月 6 日(土)	2 名
	2 月 8 日(月)～	
	2 月 11 日(木)	
内部研修	日程	人数
相談対応研修	7 月 8 日(水)	1 名
	2 月 10 日(水)	1 名
相談研修（コーディネート編）	1 月 27 日(水)	6 名
	2 月 10 日(水)	2 名
市民活動シアタースタッフ研修	3 月 31 日(水)	2 名

5-3. 視察・見学対応

令和2年度の視察・見学による来訪者の件数は21件、人数は50人だった。前年度（36件、102人）に比して大きく減少した。臨時休館などの影響の他、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、県内外からの視察・見学の自粛があったものと考えられる。

前年度は、その他（学生・議員・公益法人）が19件で最も多く、次いで市民活動団体・行政関係者がそれぞれ5件であったが、令和2年度は、行政関係者が1件にとどまり、マスコミの取材が微増した。行政関係者が、新型コロナウイルス感染防止の対応に追われていたことが伺える。マスコミの取材は、利用団体への取材で、コロナ禍で立ち上がった教育支援団体への取材などがあった。

令和2年度の月別での来訪者件数をみると、臨時休館中の4月～5月、首都圏で緊急事態宣言が発出された1月～3月の視察・見学はなく、新型コロナウイルスの感染状況により、視察・見学も自粛されたことが伺える。

（集計一覧：資料13「視察・見学対応」参照）

来訪者属性（件数）	R1 年度	R2 年度
市民活動団体	5	4
行政関係者	5	1
企業関係者	3	0
その他（学生・議員・公益法人）	19	10
マスコミ取材	4	6
合計件数	36	21

来訪者月別集計		
月	件数	人数
4 月	0	0
5 月	0	0
6 月	2	4
7 月	0	0
8 月	3	9
9 月	8	14
10 月	3	5
11 月	4	17
12 月	1	1
1 月	0	0
2 月	0	0
3 月	0	0
合計	21	50

5-4. 防災避難訓練

消防法に基づく防災避難訓練を実施した。

日程	実施時間	参加人員	不参加	訓練種別
令和2年10月14日(水)	15:00～17:30	15人	4人	消火訓練、通報訓練、
令和3年2月24日(水)	14:30～17:00	15人	4人	避難訓練、設備操作訓練

訓練の目的

〔不特定多数が利用する施設としての火災時の避難誘導の手順を共有する〕

- ◇ スタッフの避難誘導手順の実施確認（緊急時対応マニュアル）
- ◇ 施設利用者へのパニック防止のための情報提供への実施確認（館内放送）
- ◇ 館内災害対応設備の確認（施設設置設備・災害対応備品）

訓練の内容

- ◇ 防災設備、防災備品の種類、設置場所、使用方法の確認
- ◇ 避難誘導行動マニュアルの確認
- ◇ 想定災害による施設利用者への避難誘導実施訓練

消防計画に定めた年2回の消防訓練は、令和2年10月14日(水)及び令和3年2月24日(水)に実施し、「防災設備、防災備品の種類、設置場所、使用方法の確認」「訓練通報」「避難誘導訓練」を行った。「避難誘導訓練」では令和2年10月14日(水)は火災、令和3年2月24日(水)は地震を想定しての訓練とした。

令和2年10月14日(水)の実施では、コロナ禍の感染防止を考慮した避難誘導を検証することを主たるテーマにて行い、新型コロナウイルス感染症を踏まえた傷病者対応について「新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた市民による救急蘇生法について（厚生労働省指針）」の共有を図り、「コロナ禍の感染予防を考慮する避難誘導を考える」としてスタッフ間の意見交換をおこなった。

令和3年2月24日(水)の実施では、AED（自動体外式除細動器）の使用方法を研修・習得としてフクダ電子南東北販売（株）による講習を実施。改めて、コロナ禍での傷病者対応を確認した。

中央監視システムの見方、警報時の対応、自火報復旧と館内放送、消火栓および消火器の設置状況確認と操作方法を確認し、緊急時準備品（掲示物、使用キット）の確認も行い、防災避難訓練を行った後には、不備な箇所や課題点を情報共有し、改善・対処を行った。

5－5 施設の維持管理

令和2年度は、大規模な工事や修繕はなかったが、令和3年2月13日(土)深夜に発災した地震により館内の設備等に少なからず破損が発生した。施設の運営・安全管理には影響はないものの、今後修復の計画を予定している。その後も余震があり、冷温水発生器の感震装置が作動したことでエラーが幾度か発生し、その都度スタッフが対応した。

また、4階の室温計が40℃以上を示す現象が幾度か確認された。明確な原因は判明しないものの空調および室温計の正常稼働とファンコイルに問題がないことは確認できたことから、各部屋にて調整するファンコイルの消し忘れの可能性が高い。よって、今後も経過観察することとした。

館内設置のロッカーに暗証番号入力不具合が多発。今回は、リニューアルにて新規に設置した事務用ブースの設置ロッカー4台に発生し、扉を交換する修理を行った。メーカーによると、全国的に同様な不具合が発生しているとのことで、今後も同機種に発生する可能性があり、こちらも経過観察することとしている。

6. 事業報告

事業 1	情報収集提供事業	P47
事業 2	相談事業	P51
事業 3-1	人材育成事業 1.地域や社会の様々な課題の解決に自主的、自発的に取り組む市民を増やす	P53
事業 3-2	人材育成事業 2.活動の段階に応じたスキルの習得を支援するための事業	P55
事業 4-1	協働に関する 理解促進及び機会創出事業 1. 多様なまちづくりの主体を対象とした、協働に関する理解を深めるための事業	P59
事業 4-2	協働に関する 理解促進及び機会創出事業 2.多様なまちづくりの主体が活動分野を超えて連携・交流し、協働の機会を創出するための事業	P61
事業 5	調査研究事業	P65

個別事業報告書

【事業 1】 情報収集提供事業	
事業目的	1. 市民活動、協働に関する情報の収集及び提供 2. 市民活動、協働等に関する図書資料の収集、管理及び貸出 3. 市民活動団体等のチラシ、ポスター等の受付、掲示及び関係施設への配布 4. 機関誌の発行 5. サポートセンターのホームページの管理及び更新 6. その他情報集提供業務全般
成果目標	市民が団体情報や活動に有益な情報に触れる機会を増やし、まちづくりに関心を持つ人、取り組む人を増やすことを目指す。
実施目標	サポートセンターのホームページのアクセス件数を、毎年度 33,000 件以上、ブログ投稿数を毎年度 200 件以上とする。(協働まちづくり推進プラン 2016)
成果	1. 市民活動、協働に関する情報の収集及び提供 マチノワひろば：4 企画 ※自己使用 2 企画（前年度 13 企画 ※自己使用 4 企画） マチノワギャラリー：9 企画 ※自己使用 1 企画（前年度 12 企画 ※自己使用 3 企画） 2. 市民活動、協働等に関する図書資料の収集、管理及び貸出 図書貸出件数：53 件（前年度 97 件）、貸出冊数：72 冊（前年度 129 冊） 詳細は P31「3-4. 図書の貸出」参照 3. 市民活動団体等のチラシ、ポスター等の受付、掲示及び関係施設への配布 情報受付総件数：2,297 件（前年度 3,600 件／前年度比 64%） 詳細は P27「3-1. 情報掲示等利用」参照 4. 機関誌の発行 発行状況：年間 12 回（3,000 部×12 号）発行、配布部数：平均 2,561 部 詳細は P32「3-5. 情報発信（1）サポートセンター通信『ぱれっと』の発行」参照 5. サポートセンターのホームページの管理及び更新 ホームページ ユニークユーザー：19,608（前年度 30,123、前年度比 65%） ページビュー：95,659（前年度 134,980、前年度比 83%） ブログ ユニークユーザー：57,491（前年度 40,839、前年度比 141%） ページビュー：777,079（前年度 593,184、前年度比 131%） 投稿記事数：404 件（前年度 292 件） 詳細は P33「3-5. 情報発信（2）ホームページの管理、（3）ブログの管理」参照 6. その他情報集提供業務全般 ・動画配信番組による情報発信（TOHOKU360×市民活動サポートセンター） ローカルニュースサイト TOHOKU360 と協働で動画配信番組「いづいっちゃんねる」をスタート。地域情報への関心が高い市民へ、仙台を中心に県内で課題解決に取り組んでいる団体の生の声を動画配信で届け、情報発信支援。再生数はのべ 2 千件以上となった。 ・公式 YouTube チャンネル「サボセンちゃんねる」の開設 令和 3 年 3 月にサポートセンターの公式 YouTube チャンネルを開設した。開設まもないため、令和 3 年 3 月末時点でチャンネル登録者数は 8 人にとどまっているが、令和 3 年 2 月 8 日に実施した「協働の現場トーク！」の様子を伝える動画の再生回数は、ダイジェスト版 44 回、フルバージョン 72 回視聴された。

課題	新型コロナウイルスの感染拡大により、施設利用者が減少。それにともない紙媒体を中心とした情報掲示の利用や、施設概要を伝えるホームページの閲覧者数も減少した。コロナ禍の情報発信として、訪問者数・閲覧者数が伸びているブログや、「市民活動イベント掲示板」、動画コンテンツなど新しく動き出したウェブコンテンツを活用していく必要がある。		
実施概要	1. 市民活動、協働等に関する情報の収集および提供		
	①マチノワひろば 市民活動やまちづくりに関する情報を展示した。		
	期間	企画	設置者・主催者
	6月1日(月)～ 7月31日(金)	「追悼 中村哲医師」写真展	「追悼 中村哲医師」宮城県実行員会
	12月8日(火)～ 12月22日(火)	2020 せんだいわらアート	一般社団法人 ReRoots
	1月14日(木)～ 3月11日(木)	復興を支え続ける市民のチカラ ①復興活動資料	サポートセンター
	3月12日(金)～ 3月31日(水)	復興を支え続ける市民のチカラ ②市民メディア	サポートセンター
	②マチノワギャラリー 活動をPRできる展示スペースとして市民活動団体に貸出した。		
	期間	展示タイトル	設置者・主催者
	4月1日(水)～ 6月5日(金)	新型コロナウイルス感染防止啓発	サポートセンター
	6月6日(土)～ 7月26日(日)	子どもの夢をかなえるプロジェクト「ゆめのおむすび」	仙台駆け込み寺（現：公益社団法人日本駆け込み寺仙台支部）
	7月26日(日)～ 8月19日(水)	市民のチカラで伝える仙台七夕	サポートセンター、風の時編集部、仙台に夜間中学をつくり育てる会
	8月21日(金)～ 9月29日(火)	こよみのあしおとの「あしおと」と「これから」	NPO こよみのあしおと
	10月1日(木)～ 10月30日(金)	カード織りを体験してみませんか？	カード織りあかつき会
	11月4日(水)～ 11月30日(月)	せんだいスポーツ映画祭	一般社団法人 SC. FIELD
	12月1日(火)～ 12月28日(月)	寄付月間展示企画～ボーダレスなアートの現場から～	日本ファンドレイジング協会 東北チャプター、NPO 法人ワンダーアート
	1月7日(木)～ 1月31日(日)	被災地と歩んだ10年	一般社団法人復興応援団
2月4日(木)～ 2月28日(日)	Project San-Eleven 団体紹介	Project San-Eleven	
3月1日(日)～ 3月31日(火)	てんかん啓発キャンペーン「パープルデー」	公益社団法人 日本てんかん協会宮城県支部	

2. 市民活動、協働等に関する図書資料の収集、管理及び貸出

P31「3-4. 図書の貸出」参照

3. 市民活動団体等のチラシ、ポスター等の受付、掲示及び関係施設への配布

新型コロナウイルス感染対策を行いながら、チラシ等の受付及び掲示を行った。不特定多数がチラシに触れることのないよう、チラシを配架する際に、ラックから引き出さずとも一目でチラシ全体が見えるように掲示した他、一度手に触れたチラシの持ち帰りをお願いする表示を行った。

「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（骨プロ）」は、令和2年4月11日～9月30日期间、サポートセンターと連携施設の臨時休館や、サービス縮小に伴い休止。令和2年10月1日～「市民活動イベント掲示板」として運用を開始した。

「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（骨プロ）」担当者会議

日時：令和2年9月4日（金）午後3時～午後4時半

会場：仙台市市民活動サポートセンター4階 研修室5

参加：10名（施設：7施設、担当課：1課、指定管理者：1団体）

内容：「骨プロ」概要共有、市民活動イベント掲示板の設置背景・概要・運用方法善点について説明、質疑応答、意見交換

4. 機関誌『ばれっと』の発行

① 発行 毎月1日 月／3,000部

② 仕様・構成

<令和2年度4月号～令和2年7月号>

(1) 仕様 A3サイズ、2つ折り、4ページ、フルカラー

(2) 構成

今月のワクワクビト、協働のまちづくり事例

下記7コーナーから毎号4つ掲載

お役立ち本／コトハジメ／活動に＋／募集して□／このたびカタチになりました／私のあしあと／気になる○○

<令和2年7月号～令和3年3月号>

※コロナ禍で社会情勢の変化が著しい中、市民活動の現場で起こっている状況に柔軟に対応するため令和2年7月号から紙面を変更した。

(1) 仕様 A4サイズ、両面、フルカラー

(2) 構成

下記、11コーナーから紙面編集に合わせて毎号選択し掲載する

ワクワクビト／協働／市民活動突撃レポート／今、私にできること／お役立ち本／コトハジメ／募集して□／このたびカタチになりました／私のあしあと／活動に＋／気になる○○

③ 工程

・1号あたり、編集会議から納品まで約1ヶ月半

・3号分の工程を同時進行

・内部編集会議→取材調整→市民ライターとの調整→取材→執筆・原稿校正→デザイナーと編集作業→センター長、副センター長確認→印刷入稿→納品→発送及び配布

5. サポートセンターのホームページの管理及び更新

・ホームページの管理および更新、ブログの更新

・ツイッターによる拡散

	6. そのほか情報収集提供業務全般 動画配信番組による情報発信（TOHOKU360×市民活動サポートセンター）			
	配信日時	テーマ／登壇者	当日 視聴者	再生数
	8月21日（金） 19:00～20:00	路上生活者支援の現場から ／NPO 法人萌友 代表 芳賀隆太郎さん	31 名	1, 102
	10月3日（土） 19:00～20:00	子ども食堂って何だろう？ ／せんだいこども食堂 代表 門間尚子さん よりみちの会 代表 植村暢子さん	27 名	398
	11月2日（月） 19:00～20:00	宮城の LGBT 今とこれから ／性と人権ネットワーク ESTO 内田有美さん にじいろ CANVAS 小野寺真さん	20 名	313
	12月17日（木） 14:00～15:00	わたしもあなたもでこぼちゃんー 子育て支援の 現場から ／子育てサポート楽っこ 代表 坂東千絵さん、 丹野直美さん、大森いくえさん	20 名	251
	2月1日（月） 19:00～20:00	生きづらさを抱えている人の『働く』を考える ／認定 NPO 法人 Switch 理事長 高橋由佳さん	19 名	146
	3月22日（月） 19:00～20:00	不登校を取り巻く現場から ／ふとうこうカフェ in せんだいみやぎ 代表 武山理恵さん	24 名	146
	計		141 名	2, 356
	※再生数は令和3年3月31日時点			
公式 YouTube チャンネル「サポセンちゃんねる」 ・動画 1 【協働の現場トーク！】「ちょっとお茶っこサロン」に見る小さな協働 -本編- （令和3年3月5日公開／令和3年3月31日時点の視聴回数 75 回） ・動画 2 【協働の現場トーク！】「ちょっとお茶っこサロン」に見る小さな協働 -ダイジェスト版- （令和3年3月5日公開／令和3年3月31日時点の視聴回数 48 回）				
添付	☐ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☒ その他（下記3点） ・令和2年度マチノワギャラリー感想シート ・機関紙現物 ・読者の声			

個別事業報告書

【事業 2】相談事業	
事業目的	1. 市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談対応 2. 市民活動団体間の協働や、多様なまちづくりの主体間の協働を進めるために必要な支援及びコーディネート等に関する相談対応
成果目標	地域の課題に気づいた市民が課題解決に自ら取り組み、必要に応じて多様なまちづくりの主体が協働で課題解決に取り組める状況をつくる。
実施目標	年間相談件数 900 件、活動相談件数 400 件
成果	1. 市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談対応 年間相談件数 679 件（前年度比 89%）、内活動相談件数 314 件（前年度比 107%） <u>活動相談の属性別内訳</u> 市民活動（非営利団体）174 件（前年度 135 件） 町内会（地縁組織）2 件（前年度 5 件） 企業（営利組織）16 件（前年度 32 件） 大学（教育機関）4 件（前年度 9 件） 行政・外郭 16 件（前年度 20 件） その他（市民など）102 件（前年度 93 件） ・貸室の申し込みなどのタイミングでスタッフが積極的にコロナ禍の中での活動についてヒアリングや情報収集を実施したことで市民活動（非営利団体）の活動相談件数が前年度よりも増加した。 ・コロナ禍に関連した活動相談は 120 件。資金調達、感染対策を行いながらの活動方法、団体内での活動継続に対する意識の違い、コロナ禍での新たな課題に対応する活動の立ち上げなどについて対応した。 2. 市民活動団体間の協働や、多様なまちづくりの主体間の協働を進めるために必要な支援及びコーディネート等に関する相談対応 ・平成 30 年度から榴岡図書館の事業の一部に計画段階から協力し、図書館と地域との関わりを深める取り組みをコーディネートした。図書館と市民活動団体の間を取り持った結果、令和 2 年度からは、両者が協働していくことになり、必要に応じてサポートセンターが調整や情報提供などを行っていくことになった。
課題	・臨時休館等での利用者減に伴い、相談件数全体が減少。目標の 900 件に届かなかった。 ・行政・企業・大学・町内会からの活動相談件数は 38 件と前年度の 66 件よりも大幅に減少した。 ・連携（「市民活動団体間のネットワーク相談」「多様な主体による協働の相談」「協働のノウハウ・事例に関する相談」）は 16 件と前年度の 34 件よりも減少した。
実施概要	1. 市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談対応 (1) 相談ツールの活用 4 月 16 日（木）市民活動お役立ち情報 No. 1～No. 13 更新 (2) 伴走相談 フォローアップ（状況確認）による情報提供やコーディネート等を通して、継続した相談対応で伴走型の支援を実施。

(3)アウトリーチ相談

他機関（アシ☆スタ、各区中央市民センター等）や地域の団体へ出向き、相談対応・コーディネート・情報提供。

【概要】

連携機関が主催する、市民活動にかかわる人材の育成や協働推進を目的とした事業で、当センターに協力依頼や相談があった案件について、必要に応じてスタッフがコーディネーター等として機能しながら事業への協力を実施した。

【内容】

- ① 仙台市起業支援センター“アシ☆スタ”「企業・創業なんでも相談 DAY」
相談員を派遣。主に相談者の思いの整理を担当し、11 件の相談に対応した。
相談員派遣日 令和 2 年 10 月 21 日(水)、12 月 16 日(水)、
令和 3 年 2 月 17 日(水)、3 月 17 日(水)
- ② 仙台市榴岡図書館の事業運営相談への対応
前年度末に、榴岡図書館から令和 2 年度の実施事業についての地域連携事業の協力要請があった。図書館より依頼のあった市民活動団体の協働をコーディネートした。
- ③ 宮城野区中央市民センター 若者社会参画型学習推進事業「まいぷろ」
若者たちの市民活動、地域活動に対する理解と主体性を醸成し、スムーズかつ継続的に活動していくための基本を学ぶ場づくりを行う「まいぷろ」へ協力。
令和 2 年度は、映像による地域の紹介を予定したが、新型コロナウイルスの感染拡大により、事業の開始が大幅に遅れ、下半期のみの実施となった。受講生は尚絅学院高校の生徒で、完成後は学内報告会も開催された。
サポートセンタースタッフが協力した事業は以下の通り。

日時	場所	内容
8 月 22 日(土)	宮城野区中央市民センター	情報発信のための取材方法・安藤歩美氏による講座
10 月 3 日(金)	太平洋フェリー仙台営業所	見学取材・災害対策中心（震災時の被害のヒアリングも含む）
10 月 17 日(土)	キリンビール仙台工場	見学取材・災害対策中心（震災時の被害のヒアリングも含む）
10 月 23 日(金)	尚絅学院高校	南蒲生浄化センター職員からの講義（災害対策）
12 月 19 日(土)	サポートセンター	情報発信の具体的方法と手段を学ぶ安藤歩美氏による講座

(4)相談データベース改修

相談について記録・管理している相談データベースについて、操作性の観点からクラウド化するとともに、受付システムとも連動可能なデータベースへと改修した。

2. 市民活動団体間の協働や、多様なまちづくりの主体間の協働を進めるために必要な支援及びコーディネート等に関する相談対応

(1)協働相談

仙台市市民協働推進課の仙台市市民協働事業提案制度の事前相談に 8 件対応した。
また、上記、榴岡図書館と市民活動団体の協働をコーディネートした。

添付

☐広報物 ☐配布資料 ☐アンケート結果 ☐その他（ ）

個別事業報告書

【事業 3】人材育成事業	
1. 地域や社会の様々な課題の解決に自主的、自発的に取り組む市民を増やす	
事業目的	地域や社会の様々な課題の解決に自主的、自発的に取り組む市民を増やす
成果目標	地域や社会の課題の解決に様々な形で関わる市民を増やし、その潜在能力を引き出すことで、価値観の変化や地域の存立に大きな影響を与える課題にもしなやかに対応できる人材を育成する。
実施目標	人材育成のための研修の延べ参加者数を、毎年度 300 人以上とする。(事業 3) 若者の人材育成に資する事業を、関係団体等と連携しながら、毎年度 2 事業以上実施する。 (協働まちづくり推進プラン 2016)
成果	・ 6 回の配信で当日のリアルタイム視聴者数は 141 人。令和 3 年 3 月 31 日時点ののべ再生数は 2,356 回。 ・ 登壇者団体への寄付など、視聴者が動画を見て実際にアクションを起こした。 ・ YouTube のコメント機能を使い、配信中にゲスト団体と視聴者がコミュニケーションを取り、社会課題や活動について理解を深めることにつながった。 ・ 配信終了後も YouTube 上で動画を閲覧可能としたため、配信日以降も動画の再生数が増え、のべ 2 千回以上と波及効果が大きい。 ・ サポートセンターとしては初めての試みとなる動画配信をしたことで、サポートセンター利用者とは異なる新たな層が社会活動について触れる機会をつくることができた。これには、TOHOKU360 と協働して実施した相乗効果が大きい。 ・ 動画を視聴した団体が配信直後に自主企画を実施するなど、社会課題解決に関わる市民の広がりにつながった。 ・ 事業を通して、登壇者団体と視聴者が所属する団体が連携するきっかけをつくった。
課題	配信後の視聴者のアクションについては動画コンテンツのコメント機能等で数件確認できたが、今のところ配信終了後の視聴者のアクションを把握する手段が乏しい。次年度は、配信によって認知された社会課題やその後の行動について、把握できるような機会づくりを設計する必要がある。
実施概要	1. 地域や社会の様々な課題の解決に自主的、自発的に取り組む市民を増やす (1) いづいっちゃんねる 市民が地域の課題について深く知る動画配信番組を、地域に根差したメディアである TOHOKU360 とサポートセンターの連携により制作・発信した。それにより、市民が団体の情報や地域課題に触れる機会を増やし、まちづくりに関心を持つ人、取り組む人を増やすことを目指した。 日時：表の通り 1 時間程度／1 回 手段：ZOOM+YouTube 対象：市民活動無関心層・何かしたいと思いを抱く関心層など 内容：毎回、ひとつの社会課題をテーマに、仙台市を中心に県内で解決に取り組んでいる団体をゲストに、インターネット配信番組を制作する。制作した番組は、リアルタイムで配信するとともに YouTube にアップロードし、後からも視聴可能とした。ゲストには、取り組む社会問題の現状や活動の様子、活動における課題について話してもらい、解決のために一人ひとりができるアクションも提示した。

	配信日時	テーマ／登壇者	当日 視聴者	再生数
	8月21日（金） 19:00～20:00	路上生活者支援の現場から ／NPO 法人萌友 代表 芳賀隆太朗さん	31 人	1,102
	10月3日（土） 19:00～20:00	子ども食堂って何だろう？ ／せんだいこども食堂 代表 門間尚子さん よりみちの会 代表 植村暢子さん	27 人	398
	11月2日（月） 19:00～20:00	宮城の LGBT 今とこれから ／性と人権ネットワーク ESTO 内田有美さん にじいろ CANVAS 小野寺真さん	20 人	313
	12月17日（木） 14:00～15:00	わたしもあなたもでこぼこちゃんー 子育て支援の 現場から ／子育てサポート楽っこ 代表 坂東千絵さん、 丹野直美さん、大森いくえさん	20 人	251
	2月1日（月） 19:00～20:00	生きづらさを抱えている人の『働く』を考える ／認定 NPO 法人 Switch 理事長 高橋由佳さん	19 人	146
	3月22日（月） 19:00～20:00	不登校を取り巻く現場から ／ふとうこうカフェ in せんだいみやぎ 代表 武山理恵さん	24 人	146
	計		141 人	2,356
	※再生数は令和3年3月31日時点			
添付	☐ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☐ その他（ ）			

個別事業報告書

【事業 3】人材育成事業	
2. 活動の段階に応じたスキルの習得を支援するための事業	
事業目的	活動の段階に応じたスキルの習得を支援するための事業の企画及び実施
成果目標	地域や社会の課題の解決に様々な形で関わる市民の潜在能力を引き出すことで、価値観の変化や地域の存立に大きな影響を与える課題にもしなやかに対応できる人材を育成する。
実施目標	人材育成のための研修の延べ参加者数を、毎年度 300 人以上とする。(事業 3) 若者の人材育成に資する事業を、関係団体等と連携しながら、毎年度 2 事業以上実施する。 (協働まちづくり推進プラン 2016)
成果	<u>はじめての助成金申請編</u> ・ 10 人が参加し、講座満足度が 5 点満点中 4.78 点と高評価を得られた。 ・ 青葉区まちづくり活動助成事業への申請を検討中の方の参加があり、講座終了後に申請書添削等の個別相談に繋がった。 <u>はじめてのオンライン編</u> ・ 活動のオンライン化を検討中の方など 14 人が参加し、うち 7 人は助成金申請講座と連続で受講した。 <u>グラレコ入門・可視化講座</u> ・ 定員 20 人のところ 40 人の申し込みがあり、定員を 30 人に増員。28 人が参加し、講座満足度が 5 点満点中 4.81 と高評価を得られた。 ・ 地域活動やファシリテーションの場で活用したい、という声があった。 <u>チームの話し合いの質がアップする！グラレコ活用講座</u> ・ 定員 20 人のところ 32 人の申し込みがあった。定員を 30 人に増員。28 人が参加し、講座満足度が 5 点満点中 4.88 と高評価を得られた。 ・ アンケートに、具体的に得られたノウハウについての感想が多く見られた。 <u>事業参加者フォローアップ</u> ・ サポートセンター利用団体より提出された活動報告書よりコロナ禍で資金的な課題を抱えている団体を抽出し、仙台市の市民活動支援金の情報を提供。申請につながった。 <u>発表の場づくり</u> ・ 前年度以前より活動立ち上げ時点から相談対応を行っている団体など 2 団体が相談対応から、マチノワギャラリーの活用につながった。
課題	<u>はじめての助成金申請編</u> ・ 参加者が 10 人と、目標の講座参加者数に届かなかった。 <u>はじめてのオンライン編</u> ・ Web 会議アプリの使い方などの具体的・技術的なことを知りたかったという意見があり、講座満足度が 5 点満点中 4.08 と若干下がった。広報での伝え方の不足や、参加者のニーズと異なっていたことが考えられる。 <u>グラレコ入門・可視化講座、チームの話し合いの質がアップする！グラレコ活用講座</u> ・ 主な対象を市民活動団体としたが、グラレコ自体に興味のある個人の方の参加も多かった。市民活動団体向けの広報を強化する必要がある。 ・ 定員を超えた申し込みがあり、一部参加をお断りしたが当日欠席があり空席が出た。 ・ 講師との連絡調整が不足して、講座当日や後日の事務処理に一部影響があった。

実施概要	2. 活動の段階に応じたスキルの習得を支援するための事業 (1) はじめて講座 市民活動を担う人材が、身に付けておくべき基本的なノウハウを学べる機会を講座形式で実施した。 ① はじめての助成金申請 日 時：令和3年2月20日(土)10:00～11:00 会 場：6階 セミナーホール 講 師：サポートセンタースタッフ 対 象：助成金への申請を検討している市民活動初心者（立ち上げ予定の者、新規設立団体・NPO法人）、すでに活動を始めている者 参加者：10人（定員15人） 参加費：無料 内 容：資金源、助成金の性質、助成金を出す側の論理などを紹介し、助成金とはどのようなものなのかという理解を促進し、申請のコツを伝えた。 ② はじめてのオンライン 日 時：令和3年2月20日(土)11:15～12:45 会 場：6階 セミナーホール 講 師：サポートセンタースタッフ 対 象：活動にオンラインを導入できていない市民活動初心者、すでに活動を始めている者 参加者：14人（定員15人） 参加費：無料 内 容：新型コロナウイルス感染対策で、オンライン会議やウェブセミナーなどが急速に広まっている。市民活動におけるオンラインの活用方法や事例について紹介した。 (2) テーマ別講座 市民活動を担う人材が、自立から連携へのステップアップのために必要な基礎（事業の企画立案、円滑に協働事業を行うノウハウ、広報、評価、世代交代等）を学べる講座を実施した。 ① グラレコ入門・可視化講座 日 時：令和3年2月20日(土)14:00～17:00 会 場：6階 セミナーホール 講 師：山崎史香さん（しわしわカンパニー代表） 対 象：市民活動団体、地縁組織、その他の組織 参加者：28人（定員20人→30人に拡大。申し込み40人） 参加費：無料 内 容：内容をビジュアル化することで他者にわかりやすく伝えることを目的に使用されているグラフィックレコーディング（グラレコ）学ぶことで、団体内外の円滑な意思疎通を支援した。
------	---

	②チームの話し合いの質がアップする！グラレコ活用講座 日 時：令和3年2月21日（日） 14：00～17：00 会 場：6階 セミナーホール 講 師：山崎史香さん（しわしわカンパニー代表） 対 象：市民活動団体、地縁組織、その他の組織 参加者：28人（定員20人→30人に拡大。申し込み32人） 参加費：無料 内 容：グラレコ入門・可視化講座の内容を確認しつつ、想定される組織課題をテーマに、グラレコを活用しながらディスカッションを行った。 (3)事業参加者フォローアップ これまでの事業参加者、サポートセンター利用者等を対象に、コロナ禍での活動状況について随時ヒアリングを行った また、ロッカー・レターケース利用者から提出された活動報告書を基に、コロナ禍で資金面の課題を抱えている団体を抽出し、仙台市の市民活動支援金について情報提供。実際に申請、支援金獲得につながった。 (4)発表の場づくり 相談対応から、必要に応じて発表の場としてのマチノワギャラリーを提案。 2団体のマチノワギャラリー活用につながった。 <table border="1" data-bbox="370 972 1436 1198"> <thead> <tr> <th>団体名</th> <th>展示タイトル</th> <th>期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NPO こよみのあしおと</td> <td>こよみのあしおとの「あしおと」と「これから」</td> <td>8月21日(金)～ 9月29日(火)</td> </tr> <tr> <td>カード織りあかつき会</td> <td>カード織りを体験してみませんか？</td> <td>10月1日(木)～ 10月30日(金)</td> </tr> </tbody> </table>	団体名	展示タイトル	期間	NPO こよみのあしおと	こよみのあしおとの「あしおと」と「これから」	8月21日(金)～ 9月29日(火)	カード織りあかつき会	カード織りを体験してみませんか？	10月1日(木)～ 10月30日(金)
団体名	展示タイトル	期間								
NPO こよみのあしおと	こよみのあしおとの「あしおと」と「これから」	8月21日(金)～ 9月29日(火)								
カード織りあかつき会	カード織りを体験してみませんか？	10月1日(木)～ 10月30日(金)								
添付	☒ 広報物 ☒ 配布資料 ☒ アンケート結果 ☐ その他（ ）									

個別事業報告書

【事業 4】 協働に関する理解促進及び機会創出事業	
1. 多様なまちづくりの主体を対象とした、協働に関する理解を深めるための事業	
事業目的	これまでサポートセンターを利用する機会のなかった市民や団体をはじめ、多様なまちづくりの主体を対象とした、協働に関する理解を深めるための事業の企画及び実施
成果目標	協働についての理解促進が市民レベルで着実に広まる環境をつくる。
実施目標	事業者が他の主体と交流・意見交換等ができる場となる取り組み 2 案件以上 多様な主体の交流促進プログラム参加 100 人以上
成果	コーディネーターによる進行で、協働事例についてわかりやすく紹介できたとともに、協働のポイントについては深掘りして聞き出すことができた。
課題	感染防止の観点から、会場来場者を制限せざるをえず、前年度までは会場からの質疑応答などで協働への疑問を解消できたが、一方的に協働事例を伝えるにとどまった。
実施概要	1. 多様なまちづくりの主体を対象とした、協働に関する理解を深めるための事業 (1) 協働の現場トーク！ 地域単位で取り組まれている小さな協働の事例の中の一つ、若林区のなないろの里で実施されている「ちょっとお茶っこサロン」についてトークセッションの形で紹介した。 コロナ禍での実施ということもあり、会場への来場者は極力制限する方向で準備し、公開での動画収録を実施し、後日 YouTube での配信という形態とした。 日 時：令和 3 年 2 月 8 日(月)14:00～15:30 会 場：1 階 マチノワひろば ゲスト：庄子千枝子さん（ちょっとお茶っこサロン主宰） 若生彩さん（ちょっとお茶っこサロンスタッフ 防災士） 秋谷智明さん （仙台市社会福祉協議会若林事務所支えあいセンターわかばやし） コーディネーター：安藤 歩美さん（TOHOKU360 編集長） 動画撮影・編集：NPO 法人メディアージ 動画再生数 【協働の現場トーク！】「ちょっとお茶っこサロン」に見る小さな協働 -本編- （令和 3 年 3 月 5 日公開／令和 3 年 3 月 31 日時点の視聴回数 75 回） 【協働の現場トーク！】「ちょっとお茶っこサロン」に見る小さな協働 -ダイジェスト版- （令和 3 年 3 月 5 日公開／令和 3 年 3 月 31 日時点の視聴回数 48 回）
添付	☒ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☐ その他（ ）

個別事業報告書

【事業 4】 協働に関する理解促進及び機会創出事業																											
2. 多様なまちづくりの主体が活動分野を超えて連携・交流し、協働の機会を創出するための事業																											
事業目的	これまでサポートセンターを利用する機会のなかった市民や団体をはじめ、多様なまちづくりの主体を対象とした、協働に関する理解を深めるための事業の企画及び実施																										
成果目標	地域や社会の様々な課題の解決に多様な主体が様々な形で関わり、しなやかに対応していく環境をつくる。																										
実施目標	多様な主体の交流促進を目的としたプログラムの延べ参加者数を、毎年度 100 人以上とする。 事業者が他の主体と交流・意見交換等ができる場となる事業を、毎年度 2 事業以上実施する。 (協働まちづくり推進プラン 2016)																										
成果	定期交流会「マチナカ マチノワ ラウンジ」は、4 回の実施で一般参加者が 18 人と振るわなかったが、新型コロナウイルス感染対策をしながら交流を行うための手法を試行する場となった。 せんだい・みやぎソーシャルハブは「オンライン情報交換会」を 24 回開催しのべ 319 人の参加があった。さまざまな立場の人が活発に意見交換を行う場を提供できた。情報交換から 4 つのプロジェクトが立ち上がり、課題の深掘りや実際のアクションに結びついた。																										
課題	定期交流会は、コロナ禍で会場に集まることの難しさがあった。オンライン活用も試行したが、宮城県・仙台市緊急事態宣言の発出などもあり、参加者を確保できなかった。 せんだい・みやぎソーシャルハブは、参加者の広がりが鈍く、固定化しつつある。																										
実施概要	2. 多様なまちづくりの主体が活動分野を超えて連携・交流し、協働の機会を創出するための事業 (1) 定期交流会「マチナカ マチノワ ラウンジ」 まちづくりや市民活動に関心のある人を対象とした参加無料の交流会を開催した。 <table border="1"> <tr> <td>日時</td><td>令和 2 年 9 月 25 日(金) 19:00~20:00</td></tr> <tr> <td>会場</td><td>1 階 マチノワひろば</td></tr> <tr> <td>参加者</td><td>3 人</td></tr> <tr> <td>内容</td><td>複数人で交流できるボードゲームなども設置し、自然と交流が生まれるようにした。市議会議員や個人事業主など多様な参加者があった。</td></tr> <tr> <td>開催</td><td>令和 2 年 11 月 27 日(金) 19:00~20:00</td></tr> <tr> <td>会場</td><td>1 階 マチノワひろば</td></tr> <tr> <td>参加者</td><td>一般参加者なし(市民協働推進課 1 名、サポートセンタースタッフ 3 名)</td></tr> <tr> <td>内容</td><td>今後のオンライン実施を想定し、オンライン未経験者を対象にスマホを使用して行うオンライン会議(Zoom)体験も呼びかけた。</td></tr> <tr> <td>開催</td><td>令和 3 年 1 月 29 日(金) 19:00~20:00</td></tr> <tr> <td>会場</td><td>1 階 マチノワひろば、オンライン(ZOOM)</td></tr> <tr> <td>ゲスト</td><td>東北復興文庫 ライター・編集者 葛西淳子さん</td></tr> <tr> <td>参加者</td><td>15 人(会場参加 6 人、オンライン参加 9 人)</td></tr> <tr> <td>内容</td><td>3 月 11 日で東日本大震災から 10 年であることから、震災の記録や復興に取り組むゲストからの話題提供を行った。新型コロナウイルス感染対策として ZOOM からの参加も可能とした。</td></tr> </table>	日時	令和 2 年 9 月 25 日(金) 19:00~20:00	会場	1 階 マチノワひろば	参加者	3 人	内容	複数人で交流できるボードゲームなども設置し、自然と交流が生まれるようにした。市議会議員や個人事業主など多様な参加者があった。	開催	令和 2 年 11 月 27 日(金) 19:00~20:00	会場	1 階 マチノワひろば	参加者	一般参加者なし(市民協働推進課 1 名、サポートセンタースタッフ 3 名)	内容	今後のオンライン実施を想定し、オンライン未経験者を対象にスマホを使用して行うオンライン会議(Zoom)体験も呼びかけた。	開催	令和 3 年 1 月 29 日(金) 19:00~20:00	会場	1 階 マチノワひろば、オンライン(ZOOM)	ゲスト	東北復興文庫 ライター・編集者 葛西淳子さん	参加者	15 人(会場参加 6 人、オンライン参加 9 人)	内容	3 月 11 日で東日本大震災から 10 年であることから、震災の記録や復興に取り組むゲストからの話題提供を行った。新型コロナウイルス感染対策として ZOOM からの参加も可能とした。
日時	令和 2 年 9 月 25 日(金) 19:00~20:00																										
会場	1 階 マチノワひろば																										
参加者	3 人																										
内容	複数人で交流できるボードゲームなども設置し、自然と交流が生まれるようにした。市議会議員や個人事業主など多様な参加者があった。																										
開催	令和 2 年 11 月 27 日(金) 19:00~20:00																										
会場	1 階 マチノワひろば																										
参加者	一般参加者なし(市民協働推進課 1 名、サポートセンタースタッフ 3 名)																										
内容	今後のオンライン実施を想定し、オンライン未経験者を対象にスマホを使用して行うオンライン会議(Zoom)体験も呼びかけた。																										
開催	令和 3 年 1 月 29 日(金) 19:00~20:00																										
会場	1 階 マチノワひろば、オンライン(ZOOM)																										
ゲスト	東北復興文庫 ライター・編集者 葛西淳子さん																										
参加者	15 人(会場参加 6 人、オンライン参加 9 人)																										
内容	3 月 11 日で東日本大震災から 10 年であることから、震災の記録や復興に取り組むゲストからの話題提供を行った。新型コロナウイルス感染対策として ZOOM からの参加も可能とした。																										

開催	令和3年3月26日(金)19:00～20:00
会場	1階 マチノワひろば
ゲスト	詩人 武田こうじさん
参加者	一般参加なし（サポートセンタースタッフ3名）
内容	3月11日で東日本大震災から10年であることから、震災の記録や復興に取り組むゲストからの話題提供を行った。震災直後から現在まで、様々な形で地域の方たちと関わり、活動している武田さんの「RE:プロジェクト通信」「土曜日の公園で話そう」を始めとする活動紹介を通じ地域に関わる思いを話していただいた。

(2) せんだい・みやぎソーシャルハブ オンライン情報交換会

さまざまな立場の人が自由に参加できる情報交換の場として、オンライン上で情報交換会を定期開催した。

	日時	テーマなど	参加者
1	令和2年 6月3日(水)20:00～21:30	困窮×コロナ×仙台宮城	32人
2	6月5日(金)20:00～21:30	子ども・教育×コロナ×仙台宮城	28人
3	6月7日(日)15:00～16:30	協働×コロナ×仙台宮城	18人
4	6月21日(日)15:00～16:00	定例情報交換会	13人
5	6月28日(日)15:00～17:00	深堀ヒアリング～生活困窮編～	21人
6	7月5日(日)15:00～17:00	情報の届け先と届け方を考える	16人
7	7月12日(日)15:00～16:00	定例情報交換会	15人
8	7月19日(日)15:00～16:00	定例情報交換会	10人
9	7月30日(木)19:00～20:00	定例情報交換会	10人
10	8月11日(火)18:00～18:45	定例情報交換会	8人
11	8月17日(月)18:30～19:30	定例情報交換会	14人
12	8月27日(木)19:00～20:00	定例情報交換会	14人
13	9月10日(木)19:00～20:00	定例情報交換会	11人
14	9月24日(木)19:00～20:00	定例情報交換会	8人
15	10月8日(木)19:00～20:00	定例情報交換会	9人
16	10月29日(木)19:00～20:30	定例情報交換会	12人
17	11月13日(金)19:00～20:30	定例情報交換会	8人
18	12月3日(木)19:00～20:00	定例情報交換会	10人
19	12月17日(木)19:00～20:00	定例情報交換会	9人
20	令和3年 1月7日(木)19:00～20:00	定例情報交換会	9人
21	1月21日(木)19:00～20:00	定例情報交換会	13人
22	2月8日(月)19:00～20:00	定例情報交換会	11人
23	2月26日(金)19:00～20:00	定例情報交換会	9人
24	3月18日(木)19:00～20:00	定例情報交換会	11人
		計	319人

	■オンライン情報交換会から生まれたプロジェクト ①若者・学生の社会的孤立防止プロジェクト コロナ禍の学生の貧困・孤立をテーマに、学生へのヒアリング調査、情報発信の勉強会などを通して、学生による新型感染症を乗り越える学生団体はぐね設立へ至った。 ②フォーラス×アーティスト×社会課題の可能性を考える ・7月25日(土)15:00～16:30 トークセッション開催 ③仙台市基本計画中間案に対するアクション ・10月8日(木)18:00～19:00 基本計画中間案パブコメ&市民協働を考えるオンライン意見交換実施 ・10月9日(金)パブリックコメント提出 (10月8日の議論を受けてせんだい・みやぎソーシャルハブ名で提出) ④宮城県大学中退リサーチ コロナ禍の影響で、大学中退者が増加する可能性があることを想定し、基礎となる宮城県内の各大学の中退状況について、既出の資料や大学の公開データなどを基に調査した。現時点では中退者数が減少しているとの報道などもあり、コロナ禍では、就職状況が厳しいため退学を見送るなどといった事情が背景にあることが推察された。今後の社会情勢次第では、退学者が増加に転ずることも予測されるため、プロジェクトは継続することとなった。 (3)情報・課題を共有する場 市民が自ら発見した地域課題や、課題だと思ふ種を持ち寄り、多様な主体と情報を共有し、課題解決へ向けて連携を生み出す場として、上記の「宮城県大学中退リサーチ」を取り上げ、情報共有を兼ねた勉強会を実施した。 宮城県大学中退リサーチ勉強会 日 時：令和3年2月13日(土)12:30～14:30 会 場：オンライン(ZOOM) ゲスト：一般社団法人Qラボ代表理事 松本美奈さん 対 象：社会課題に関心のある多様な主体 参加者：9人 参加費：無料 内 容：宮城県内の大学中退についての話題提供と、リサーチで調査の基とした『大学の實力』を編んだ元読売新聞の松本美奈さんをお招きした勉強会
添付	☒ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☐ その他 ()

個別事業報告書

【事業 5】 調査研究事業	
事業目的	指定管理業務全般を通して得られた知見等を基にした市民活動や協働に係る調査研究並びに関連事業の企画及び施行
成果目標	地域や社会の様々な課題の解決に多様な主体が様々な形で関わり、しなやかに対応していく環境をつくる。
実施目標	社会課題解決のプラットフォーム運用体制の構築。 調査研究事業の成果について市民活動団体等への共有。
成果	せんだい・みやぎソーシャルハブを立ち上げ、定期的にオンライン情報交換会を開催し、新型コロナウイルス感染症の蔓延が社会的弱者に及ぼす影響について情報収集を行った。 せんだいみやぎソーシャルハブの事務局を設置し、事務局運営体制の試行を開始した。情報交換会で提供された情報をサポートセンター内の他事業へ情報提供した。また、相談対応への連携を行った。
課題	調査研究の成果を開く勉強会を実施できなかった。また、せんだい・みやぎソーシャルハブに、セッションの機能だけではなく、調査と課題を開く機能を持たせること、および、発信力の強化が求められる。
実施概要	1. 市民活動や協働に係る調査研究並びに関連事業の企画及び施行 (1) 社会課題解決のプラットフォームの試験運用のための協働体制の構築 ①せんだい・みやぎソーシャルハブの運営体制構築 NP0 法人都市デザインワークス・一般社団法人パーソナルサポートセンター・NP0 法人せんだいみやぎ NP0 センターの 3 者体制で、せんだい・みやぎソーシャルハブにおけるプラットフォーム試験運用について議論・検討を行った。 ・ 4 月 23 日(木) 調査研究事業ミーティング (オンライン) ・ 4 月 27 日(月) 調査研究事業ミーティング (オンライン) ・ 6 月 14 日(日) 調査研究事業ミーティング (オンライン) ・ 6 月 21 日(日) 調査研究事業ミーティング (オンライン) ・ 7 月 5 日(日) 調査研究事業ミーティング (オンライン) ・ 9 月 9 日(水) 調査研究事業ミーティング (サポートセンター研修室 2) ・ 12 月 17 日(木) 担当者ミーティング (オンライン) ・ 2 月 18 日(木) 調査研究事業 事務局打合せ (サポートセンター研修室 2) (2) 市民活動や協働の推進に必要な機能の洗い出しと先進事例調査や共有 ・ 企業の社会貢献活動に関するヒアリング調査 1 月 27 日(水) KDDI 株式会社東北総支社訪問 ・ 3 月 1 日(月) 東北経済産業局「東北コーディネーター・フォーラム」参加 (3) 調査研究事業の成果を開く勉強会 ・ 今年度実施せず
添付	☐ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☒ その他 (調査研究事業報告書)